

歯科診療における患者満足度調査
報告書

平成 17 年 3 月

日本歯科医学会

はじめに

歯科医療を患者に対して有効かつ効率的に提供するためには、患者の視点を重視したインフォームド・コンセントを充実させることが重要となる。

したがって、医療機関側からの情報提供や説明等の状況、それに対する患者側の満足度を調べ、診療報酬改定における医療技術の適正評価の基礎資料を得ることが必要である。具体的には、歯科診療所、歯科大学・歯学部附属病院、大学附属以外の病院歯科の各医療機関、さらに患者側の双方から医療情報の提供や説明の実態・認識・評価の状況を把握し、医療現場におけるインフォームド・コンセントの実践について検証する。

更には、中央社会保険医療協議会での検討資料とするため、保険診療における歯科医師から患者への情報提供（診療の際の説明等）について患者の満足度の状況について把握し、よりよい歯科医療の実践を目指すために実施した。

目 次

．調査設計概要	
1．調査目的	1
2．調査対象医療機関数・対象者数	1
3．調査対象地域	2
4．抽出方法	2
5．回収率（数）	2
6．調査期間	2
7．調査方法	2
8．調査内容	3
9．調査主体	3
10．実施・集計・分析	3
11．報告書監修	3
．調査の流れ	4
．調査結果のまとめ	5
．調査結果の詳細	
1．医療機関	8
2．患者	22
．考察	45
．参考資料	
集計結果	
医療機関	47
患者	54
調査票	72

．調査設計概要

1．調査目的

本調査は、国民のための歯科医療改革に資する目的の一環として、現在、我国の歯科医療において行われている情報提供の実態を明らかにして、今後の施策を考える資料とするためになされたものである。歯科医療を有効かつ効率的に患者に提供するためには、患者側の視点を重視したインフォームド・コンセントを充実させることが重要であることから、歯科医療機関における患者への医療情報提供の実態(歯科治療を行う歯科大学・歯学部附属病院、大学附属以外の病院歯科、歯科診療所の患者に対する説明・指導の状況、さらに、歯科治療に関する情報提供について、患者の「認識」及び「評価」に関する調査を行い、医療現場におけるインフォームド・コンセントの実践について検証すること)について調査を行い、中央社会保険医療協議会における医療技術の適正評価を検討する際の基礎資料とすることを目的とする。

2．調査対象医療機関数・対象者数

1) 医療機関(計471施設)

歯科大学・歯学部附属病院の責任者

29 病院

大学附属以外の病院歯科の責任者

142 病院

歯科診療所の責任者

300 診療所

2) 患者(計3,500人)

歯科大学・歯学部附属病院へ来院した初診患者

29 病院 × 20 人 = 580 人

大学附属以外の病院歯科へ来院した初診患者

142 病院 × 10 人 = 1,420 人

歯科診療所へ来院した初診患者

300 診療所 × 5 人 = 1,500 人

患者のアンケートは、上記大学・病院歯科・診療所を通じ、患者へアンケートを依頼してもらう方法とした。なお、バイアスを避けるためアンケートへの記入は施設内で記入するのではなく、自宅等の施設外で記入するようお願いをし、患

者自身が記入後、直接日本歯科医学会に送付してもらう方法とした。初診時の記憶が鮮明であるように、初診日が平成 16 年 12 月 1 日から平成 17 年 2 月 15 日までの患者を対象とした。

3 . 調査対象地域

全国

4 . 抽出方法

歯科大学・歯学部附属病院については 29 病院のすべてを調査客体とした。

病院歯科（歯科大学・歯学部附属病院を除く）については、調査対象となる全国の病院歯科から 142 病院を無作為抽出し調査客体とした。

歯科診療所については、調査対象となる全国の歯科診療所から 300 施設を無作為抽出し調査客体とした。

5 . 回収率(数)

	発送数	回収数	回収率
歯科大学・歯学部附属病院	29	22	75.9%
病院歯科	142	66	46.5%
歯科診療所	300	164	54.7%
歯科大学・歯学部附属病院の患者	580	294	50.7%
病院歯科の患者	1,420	355	25.0%
歯科診療所の患者	1,500	599	39.9%

6 . 調査期間

平成 17 年 2 月 1 日～平成 17 年 2 月 15 日

7 . 調査方法

各医療機関への調査については往復郵送調査方式とし、調査票の記入は歯科診療所にあつては開設者（管理者）、病院歯科ならびに歯科大学・歯学部附属病院にあつては診療担当者において記入を依頼した。一方、患者においては各医療機関より調査票を配布し、患者自身が記入後、直接日本歯科医学会に送付してもらう方法とした。

8 . 調査内容

巻末のアンケート参照

9 . 調査主体

日本歯科医学会

10 . 実施・集計・分析

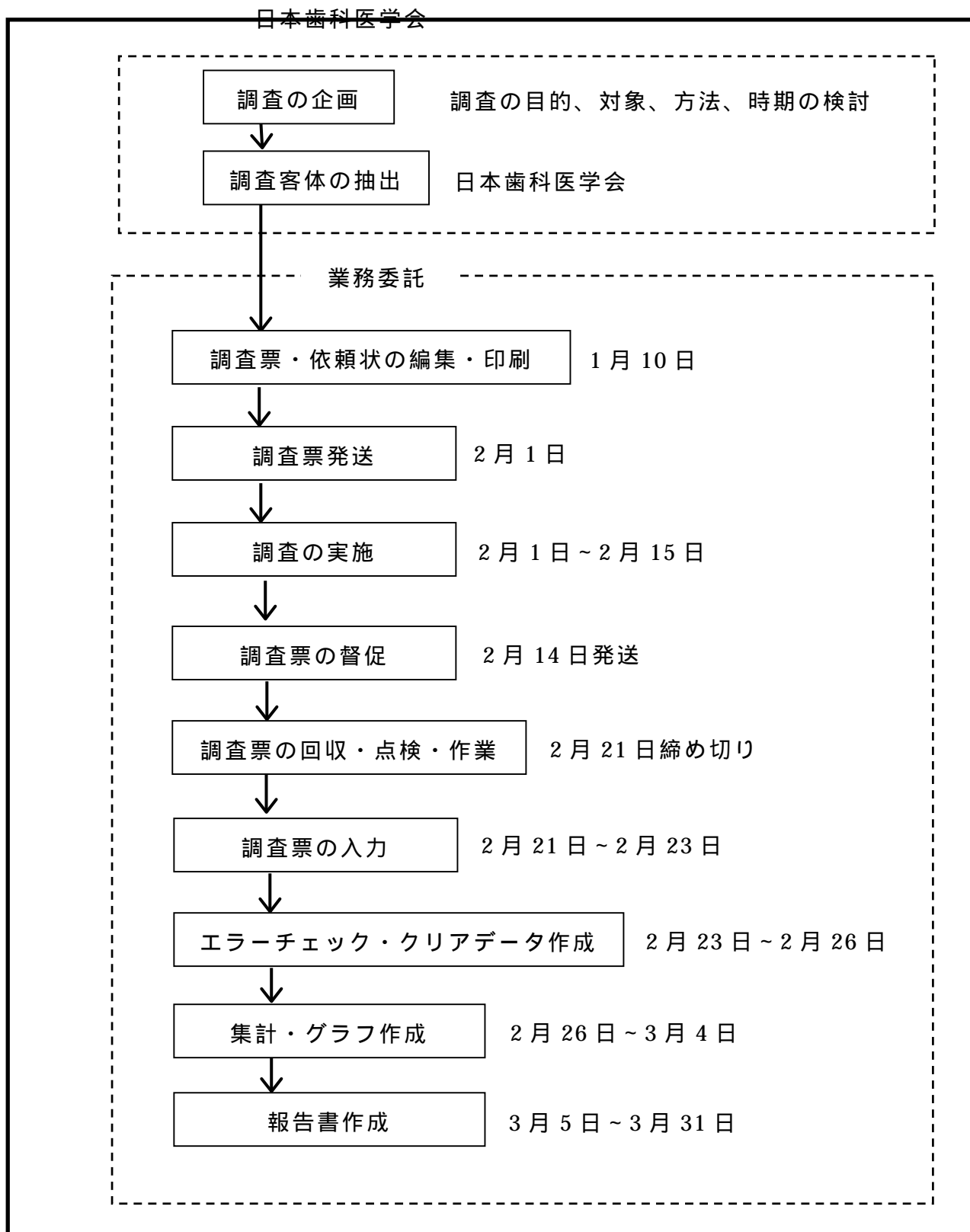
(株)山手情報処理センター

11 . 報告書監修

東京医科歯科大学 講師 大原里子

・調査の流れ

「歯科診療における患者満足度調査」に係る業務の流れ



・調査結果のまとめ

【医療機関】

初診料の届け出については、「かかりつけ歯科医初診料」が62.7%、「病院歯科初診料1」が16.3%、「病院歯科初診料2」が2.4%、初診料の届け出のない歯科初診料は18.3%との回答であった。

「補綴物維持管理料」の届け出については、88.1%が届け出ていると回答した。届け出していないとの回答は11.9%であった。

初診時の病状・治療計画等についての説明は、94%の医療機関が実施したと回答した。医療機関の46.8%が患者に対する説明を「難しい」あるいは「やや難しい」と回答した。

治療計画を文書で情報提供している割合は、「81～100%」が45.7%、「0～20%」が25%、「61～80%」が約11.5%、「41～60%」が8.7%、「21～40%」が7.1%であった。「かかりつけ歯科医初診料」を算定した患者の割合が「81～100%」であると回答した歯科診療所は65.9%であった。「61～80%」と回答した歯科診療所は14.6%、「0～20%」であると回答した歯科診療所は15.2%であった。

歯科診療所の院長の歯科医師経験年数は「20～29年」が40.2%と最も多く、次いで「10～19年」の31.7%、「30～39年」の15.9%であった。

歯磨き指導は97.2%の医療機関が実施していると回答し、医療機関の48.9%が患者に対する指導を「難しい」あるいは「やや難しい」と回答した。

ブリッジ・有床義歯の説明は96%の医療機関が実施していると答えた。33.9%の医療機関が患者に対する説明を「難しい」あるいは「やや難しい」と回答した。クラウン・ブリッジの装着時の文書交付は70.6%の医療機関が行っていると回答した。医療機関の種類別にみると、文書を交付しているとは回答したのは、歯科大学・附属病院の95.5%、歯科診療所の71.3%、病院歯科の60.6%であった。

有床義歯の脱着法、清掃等の説明は97.2%の医療機関が実施していると回答した。35.9%の医療機関が患者に対する説明を「難しい」あるいは「やや難しい」と回答した。

情報提供についての医療機関の自由記載うち主要なものは下記の記載であった。
(詳細については20ページ参照)

【歯科大学・歯学部附属病院】【病院歯科】【歯科診療所】に共通して

- ・ 文書化するのに時間がかかるが、その対価が低い。

【病院歯科】、【歯科診療所】に共通して

- ・ 情報提供を推進すべきであること及びその方向、方策。
- ・ 口頭での説明のほうが患者の状況によっては好ましい場合も多い。

【患者】

患者の性別は男性が 35.4%、女性が 63.6%との回答であった。

年齢は 50 代が 22%、次いで 40 代が 17.1%、60 代が 16%、30 代が 15.7%、20 代が 14.2%、70 歳以上が 10.7%、20 歳未満が 4.2%との回答であった。

受診した医療機関は歯科診療所が 48%、病院歯科が 28.4%、歯科大学・歯学部附属病院は 23.6%との回答であった。

初診料の算定については、「かかりつけ歯科医初診料」が 31.7%、「病院歯科初診料 1」が 25.3%、「歯科初診料」が 25.2%、「病院歯科初診料 2」が 2%（無回答が 15.7%）との回答であった。

初診時に病名・治療期間・治療内容の説明を受けたとの回答は 91.2%であった。初診時の説明をうけたうちの 86%が説明を「非常にわかりやすかった」または「わかりやすかった」と評価した。

初診時の説明内容が記入された文書を受領したとの回答は 63.2%であった。初診料算定別に見ると、「歯科初診料」算定患者の 39.6%、「かかりつけ歯科医初診料」算定患者の 77.3%、「病院歯科初診料 1」算定患者の 72.3%、「病院歯科初診料 2」算定患者の 40%が文書を受領したとの回答をした。

初診時の説明文書を受領している場合は「非常にわかりやすかった」という答が、44.5%であって、受領していない場合の 26.4%よりも多かった。

歯周病治療の受けたとの回答は 50.7%であった。

歯周病治療の受けたうちの 90.8%が歯磨き指導を受けたと回答した。

歯磨き指導を受けたうちの 96.2%が、「非常にわかりやすかった」または「わかりやすかった」と指導を評価した。

ブリッジ・義歯治療を受けたとの回答が 30.3%であった。

ブリッジ・義歯治療を受けたうちの 94.4%が、説明を受けたと回答した。

ブリッジ・義歯治療の説明を受けたうちの 93.6%が、「非常にわかりやすかった」または「わかりやすかった」と説明を評価した。

クラウン・ブリッジの治療を受けたとの回答は 33.2%であった。

クラウン・ブリッジ装着時に案内書等を受領したとの回答は 53.1%であった。医療機関の種類別に見てみると、歯科診療所は 63.2%、歯科大学・歯学部附属病院は 41.9%、病院歯科は約 40.3%が受領したとの回答であった。

義歯を新規に作る治療を受けたとの回答は 15.9%であった。

義歯を新規に作る治療を受けたと回答したうちの 82.3%が、義歯の扱い方の説明を受けたと回答した。

義歯の扱い方の説明受けたと回答したうちの 93.2%が、「非常にわかりやすかった」または「わかりやすかった」と説明を評価した。

情報提供における患者の自由記載のうち、主要なものは下記の記載であった。

(詳細については 42 ページ参照)

【歯科大学・歯学部附属病院】【病院歯科】【歯科診療所】の患者に共通して

- ・ とても丁寧で親切。
- ・ 十分な説明でわかりやすい。
- ・ 感謝している。

等の高く評価する意見が過半数を占めていた。

要望や改善点については、

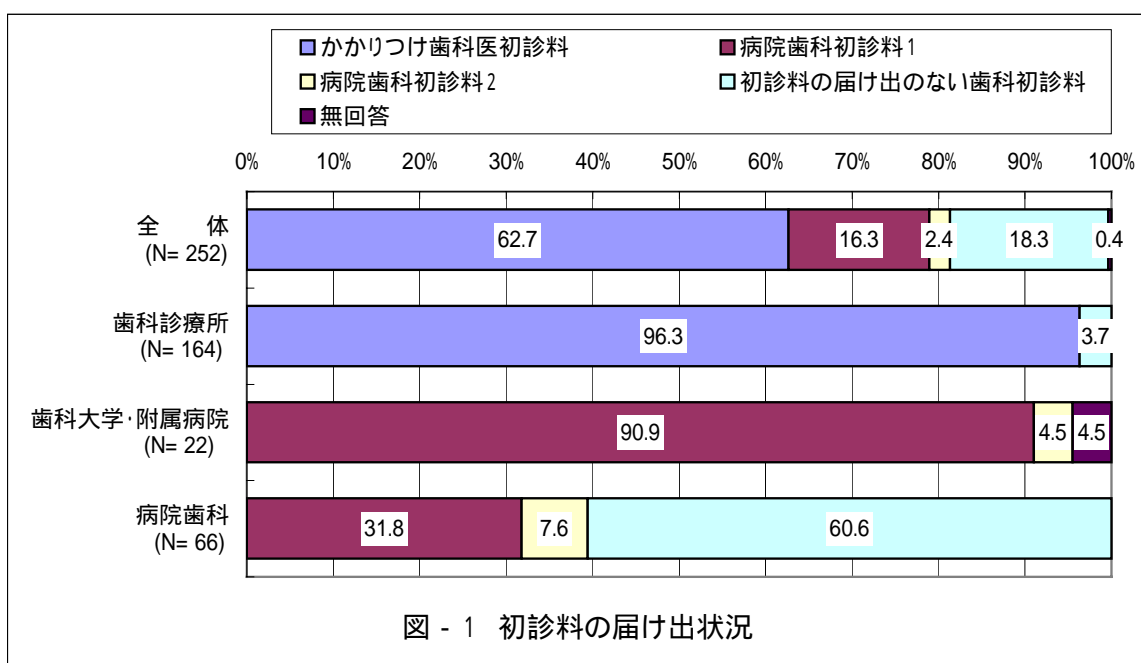
- ・ 治療期間や概算費用を知りたい。
- ・ 治療法の説明が無い。
- ・ 治療期間が長い。

・調査結果の詳細

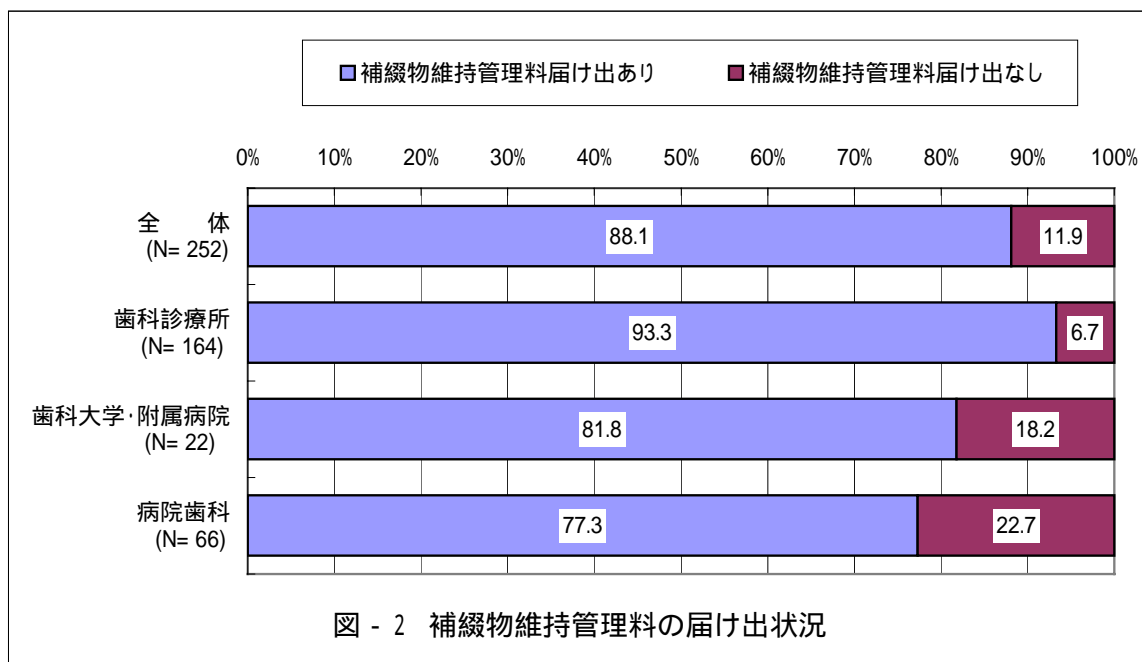
1. 医療機関

1) 初診料等の届け出状況

初診料の届け出についての回答を全体で見ると、「かかりつけ歯科医初診料」62.7%、「病院歯科初診料 1」16.3%、「病院歯科初診料 2」2.4%であり、「初診料の届け出のない歯科初診料」は 18.3%であった。初診料の届け出について医療機関の種類別で見ると、歯科診療所では「かかりつけ歯科医初診料」が 96.3%、歯科大学・附属病院では、「病院歯科初診料 1」が 90.9%、「病院歯科初診料 2」が 4.5%となっており、病院歯科では、「病院歯科初診料 1」が 31.8%、「病院歯科初診料 2」が 7.6%となっていた（図 - 1）。

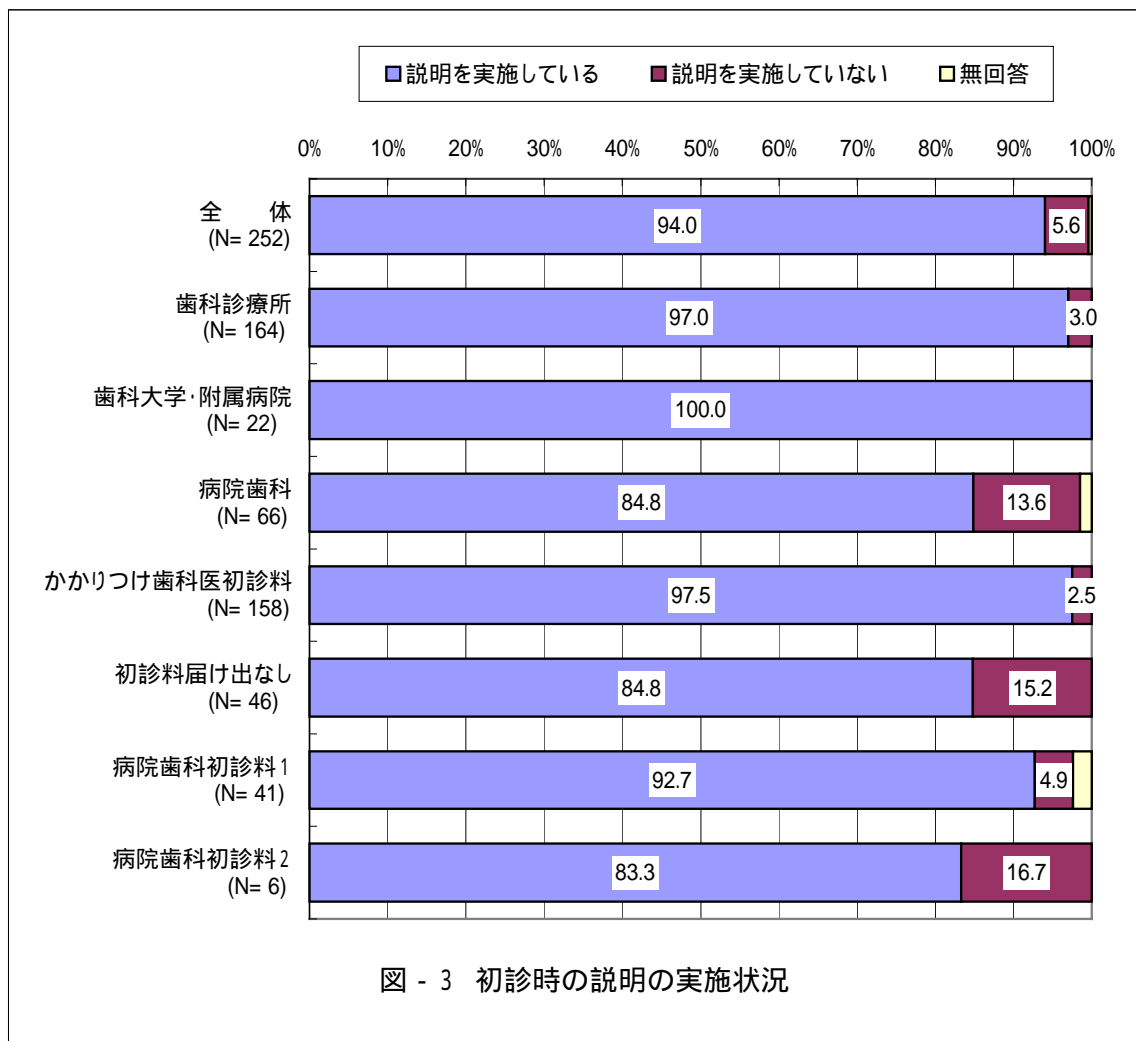


「補綴物維持管理料」の届け出について全体で見ると、「補綴物維持管理料」を届け出でしていたのは 88.1%、届け出でいていないのは 11.9%であった。「補綴物維持管理料」の届け出について医療機関の種類別で見ると、歯科診療所では 93.3%、歯科大学・附属病院では 81.8%、病院歯科では 77.3%となっていた（図 - 2）。



2) 初診時の病名・病状・医療内容・治療期間等の説明について

初診時の病名・症状・医療内容・治療期間等の説明状況を全体で見ると、94.0%の医療機関が「説明を実施している」と回答した。初診時の説明を医療機関の種類別にみると、「説明を実施している」との回答は「歯科診療所」の 97.0%、「歯科大学・附属病院」の 100.0%、「病院歯科」の 84.8%であった（図 - 3）。



以下、表現の中の『難しい』は「難しい」+「やや難しい」を、『易しい』は「易しい」+「やや易しい」を合計したものを表記する。

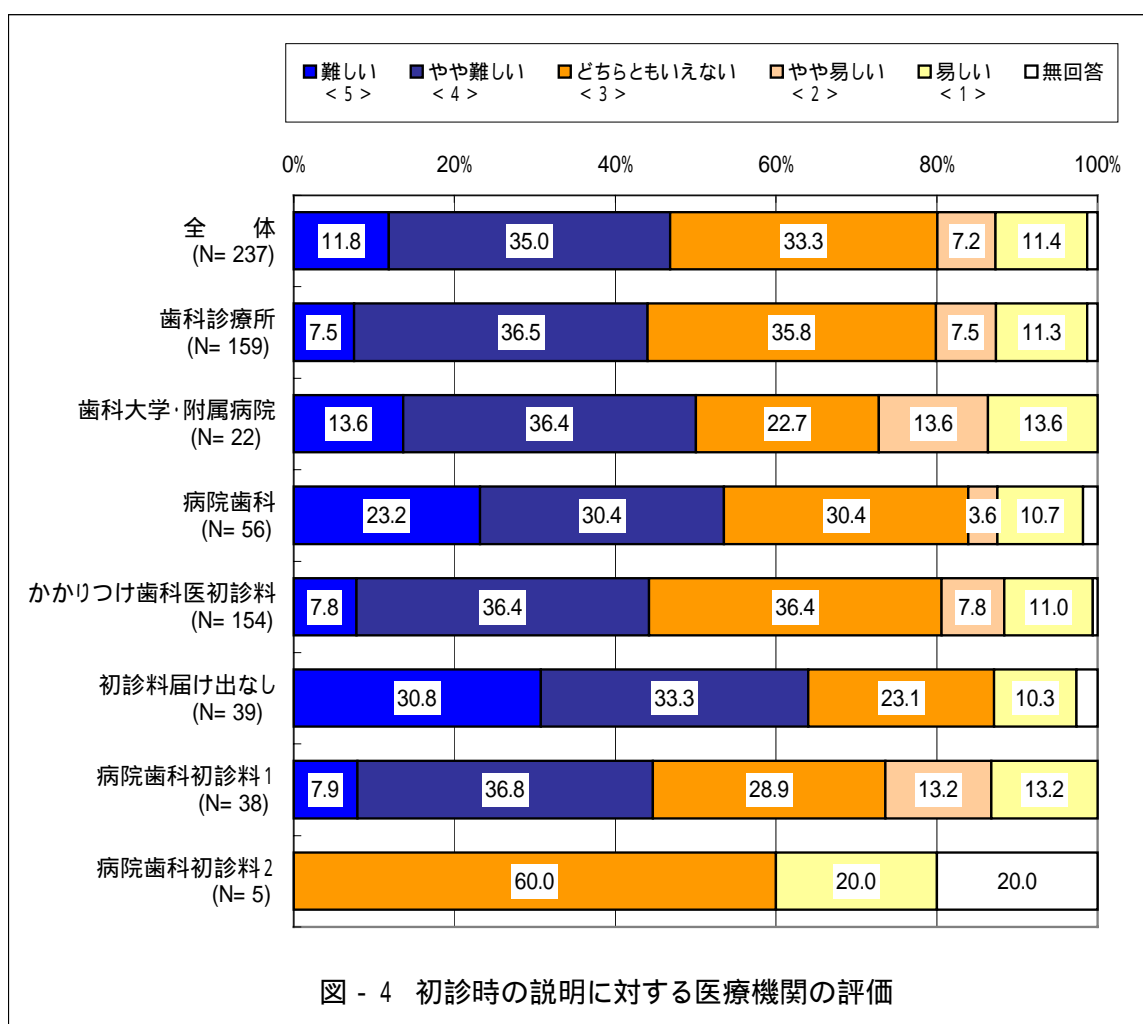
3) 初診時の説明に対する評価

患者への初診時の病名・症状・医療内容・治療期間等の説明に対する評価を全体で見ると、「難しい」が11.8%、「やや難しい」が35.0%で、これを合計して『難しい』は46.8%であった。

また、「どちらともいえない」は 33.3%、『易しい』は 18.6%となっており、難しいと考えている割合が多かった。

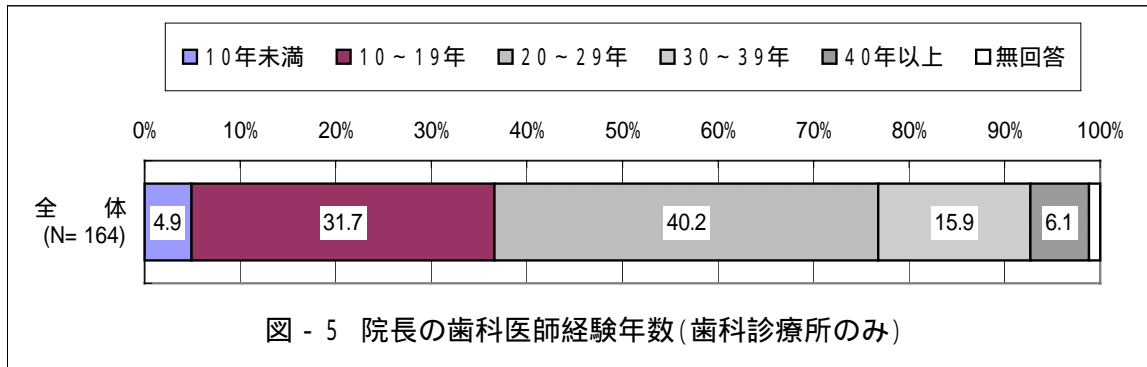
これを医療機関の種類別に見ると、『難しい』と回答したのは、「病院歯科」の 53.6%、「歯科大学・附属病院」の 50.0%、次いで「歯科診療所」の 44.0%であった。一方、「どちらともいえない」と回答したのは、「歯科診療所」の 35.8%、「病院歯科」の 30.4%、「歯科大学・附属病院」の 22.7%であった。『易しい』と回答したのは、「歯科大学・附属病院」の 27.2%、「歯科診療所」の 18.8%、「病院歯科」の 14.3%であった。

初診料の届け出の種類別で見ると、『難しい』と回答したのは「初診料届け出なし」の医療機関の 64.1%、「かかりつけ歯科医初診料」の 44.2%、「病院歯科初診料 1」の 44.7%、「病院歯科初診料 2」の 0%であった。「病院歯科初診料 2」の回答者数は 5 名と少ないことに留意すべきである（図 - 4）。



4) 院長の歯科医師経験年数(歯科診療所のみ)

歯科診療所の院長の経験年数では、「20～29年」が40.2%と最も多く、次いで「10～19年」の31.7%、「30～39年」の15.9%であった(図-5)。

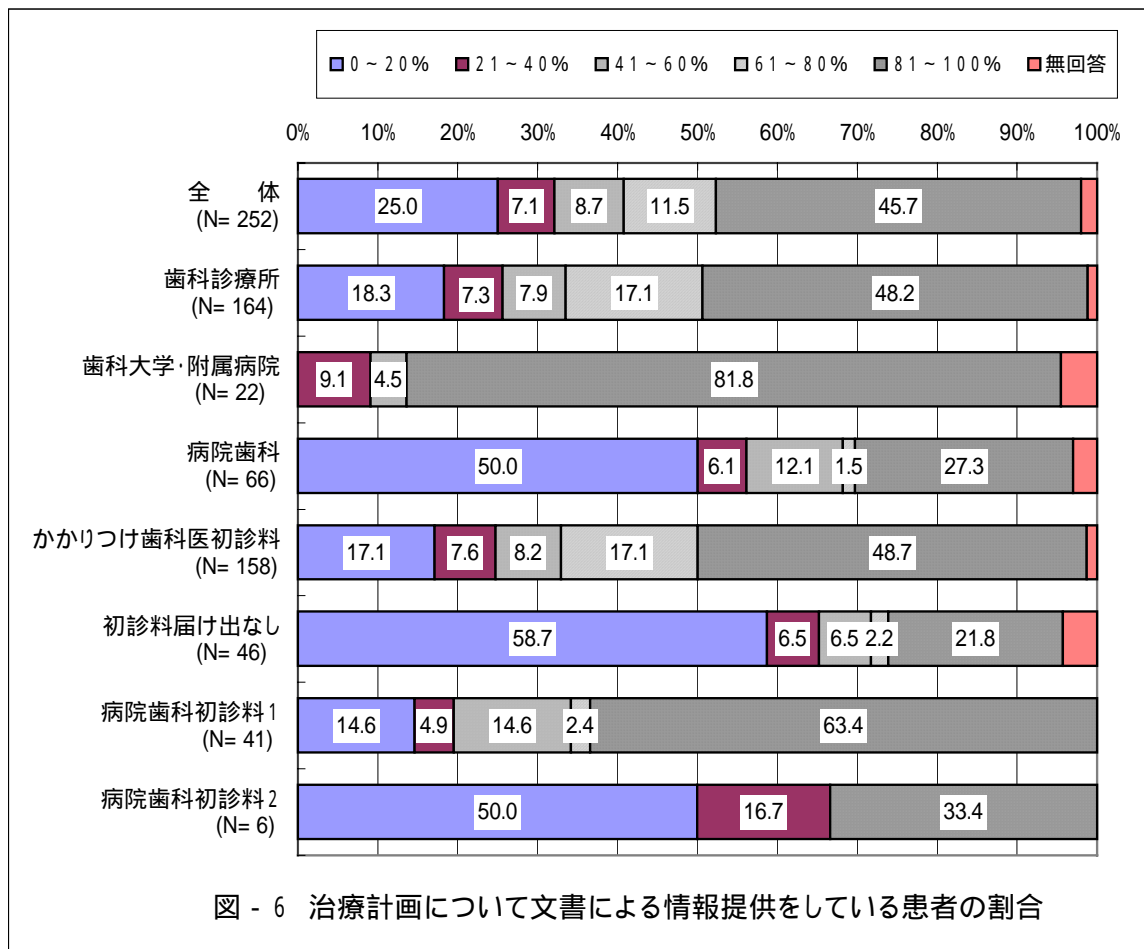


5) 治療計画について文書による情報提供をしている患者の割合

治療計画について文書による情報提供をしている患者の割合を全体で見ると、「81～100%」が45.7%、「0～20%」が25.0%、「61～80%」が11.5%、「41～60%」が8.7%、「21～40%」が7.1%、無回答が2%であった。

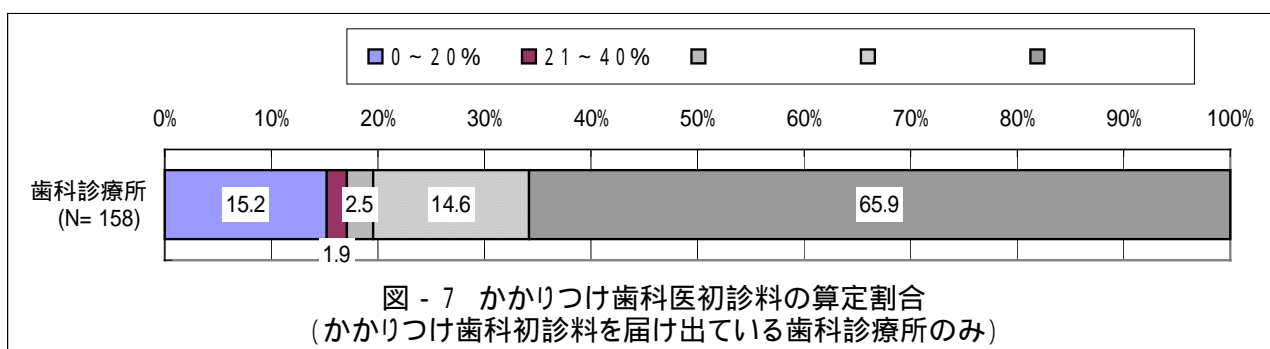
医療機関の種類別に見ると、歯科診療所では、「81～100%」が48.2%、「61～80%」が17.1%との回答であった。次に歯科大学・歯学部附属病院を見ると、「81～100%」が81.8%、「21～40%」が9.1%との回答であった。病院歯科では「0～20%」が50.0%、「81～100%」が27.3%との回答であった。

初診料の届け出の種類別で見ると、「初診料届け出なし」の歯科医療機関は「0～20%」が58.7%、「81～100%」が21.8%との回答であった。次に「かかりつけ歯科医初診料」の医療機関は「81～100%」が48.7%、「0～20%」と「61～80%」が17.1%との回答であった。「病院歯科初診料1」の歯科医療機関では、「81～100%」が63.4%、「0～20%」と「41～60%」が14.6%との回答であった。「病院歯科初診料2」の歯科医療機関は、「0～20%」が50.0%、「81～100%」が33.4%との回答であった。「歯科初診料」の歯科医療機関よりも「かかりつけ歯科医初診料」を届け出ている歯科診療所の方が、初診時に文書を交付している割合が高い回答が多かった。また、「病院歯科初診料2」の歯科医療機関よりも「病院歯科初診料1」を届け出ている病院の方が初診時に文書を交付しているとの割合が高い回答が多かった(図-6)。



6) かかりつけ歯科医初診料の算定割合 (かかりつけ歯科医初診料を届け出ている歯科診療所のみ)

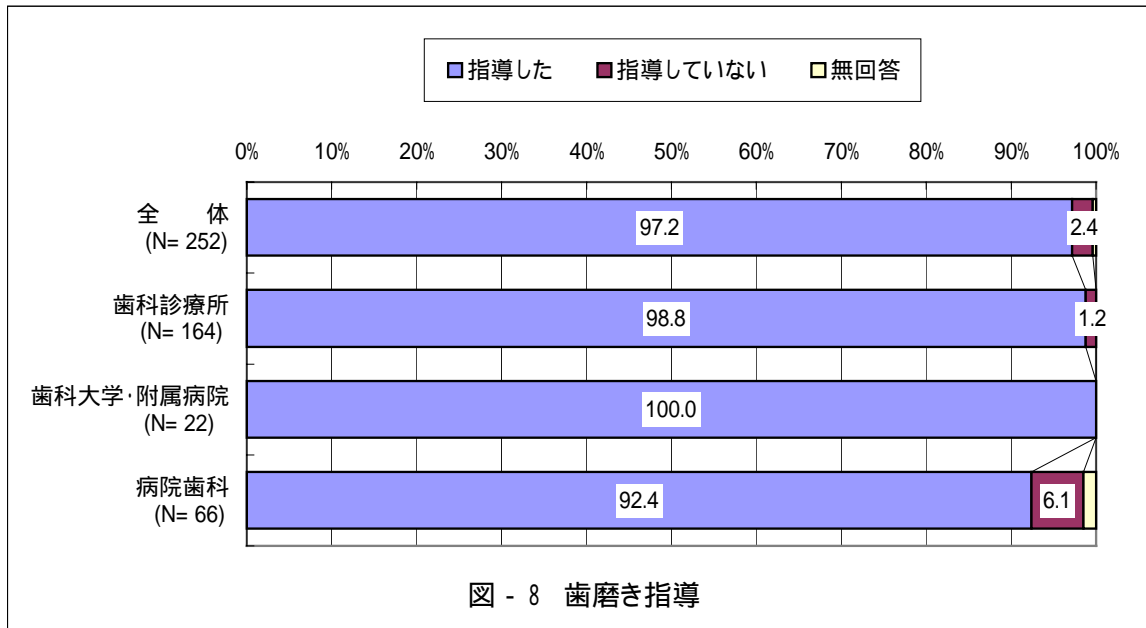
かかりつけ歯科医初診料の算定割合 (歯科診療所のみ) を全体で見ると、「81~100%」が 65.9%、「0~20%」が 15.2%、「61~80%」が 14.6%、「41~60%」が 2.5% 「21~40%」が 1.9%の順となっていた (図 - 7)。



7) 歯磨き指導

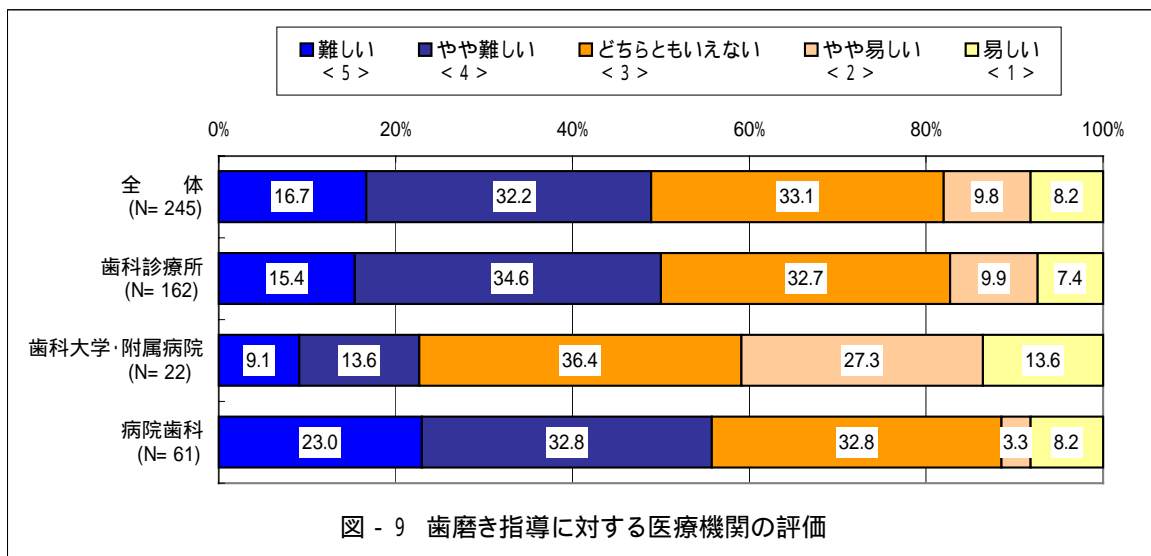
歯磨き指導についての回答を全体で見ると、「指導した」が97.2%、「指導をしなかった」が2.4%であった。

医療機関の種類別に見ると、「歯科診療所」の98.8%、「歯科大学・附属病院」の100.0%、「病院歯科」92.4%が「指導した」と回答した(図-8)。



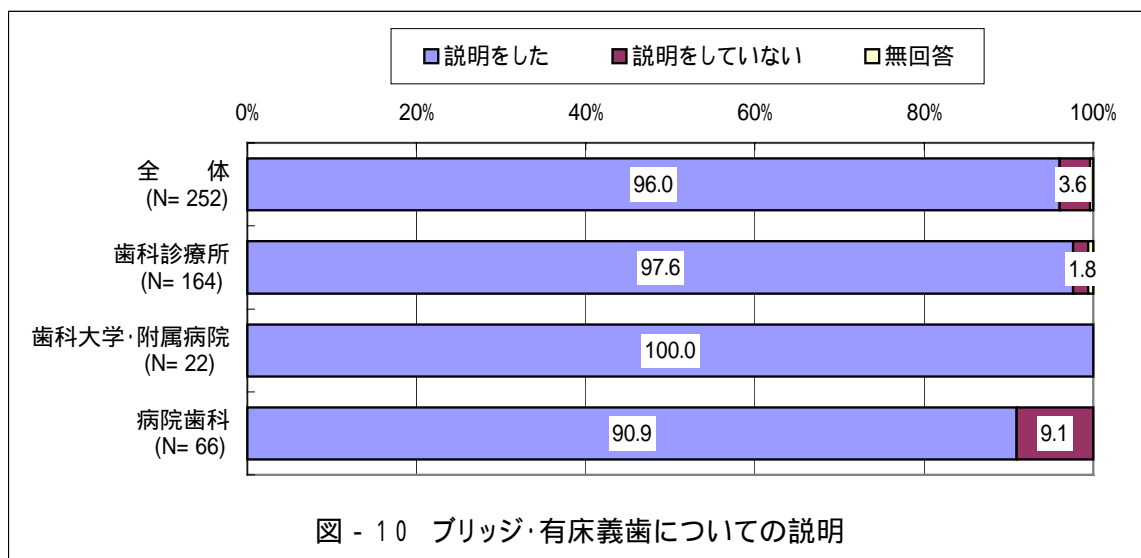
8) 歯磨き指導に対する評価

歯磨き指導に対する医療機関の評価を全体で見ると、『難しい』が48.9%、『易しい』が18.0%、『どちらともいえない』が33.1%の回答であった。また、医療機関の種類別に見ると、「病院歯科」の55.8%、「歯科診療所」50.0%、「歯科大学・附属病院」の22.7%が『難しい』との回答であった。「病院歯科」や「歯科診療所」に比較して、「歯科大学・歯学部附属病院」が指導を『難しい』と答えた比率は約半分であった(図-9)。



9)ブリッジ・有床義歯についての説明

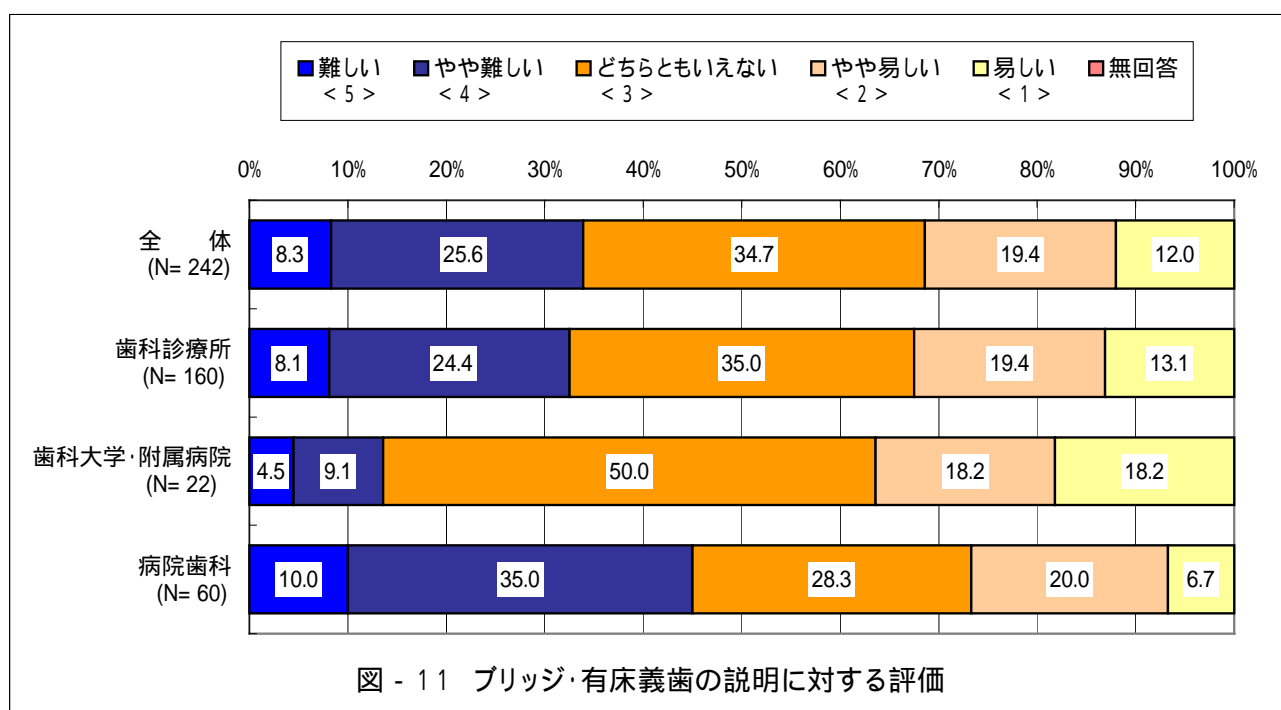
ブリッジ・有床義歯についての説明を全体で見ると、「説明をした」が96.0%、「説明をしていない」が3.6%との回答であった。医療機関の種類別に見ると、「歯科診療所」の97.6%、「歯科大学・附属病院」の100.0%、「病院歯科」の90.9%が、「説明をした」と回答した(図-10)。



10)ブリッジ・有床義歯の説明に対する評価

ブリッジ・有床義歯の説明に対する医療機関の評価を全体で見ると、『難しい』が33.9%、『易しい』が31.4%、『どちらともいえない』が34.7%との回答であった

また、医療機関の種類別に見ると、「病院歯科」の45.0%、「歯科診療所」の32.5%、「歯科大学・附属病院」の13.6%が『難しい』と回答した。「病院歯科」や「歯科診療所」に比較して、「歯科大学・歯学部附属病院」が説明を『難しい』と答えた比率は半分以下であった(図-11)。

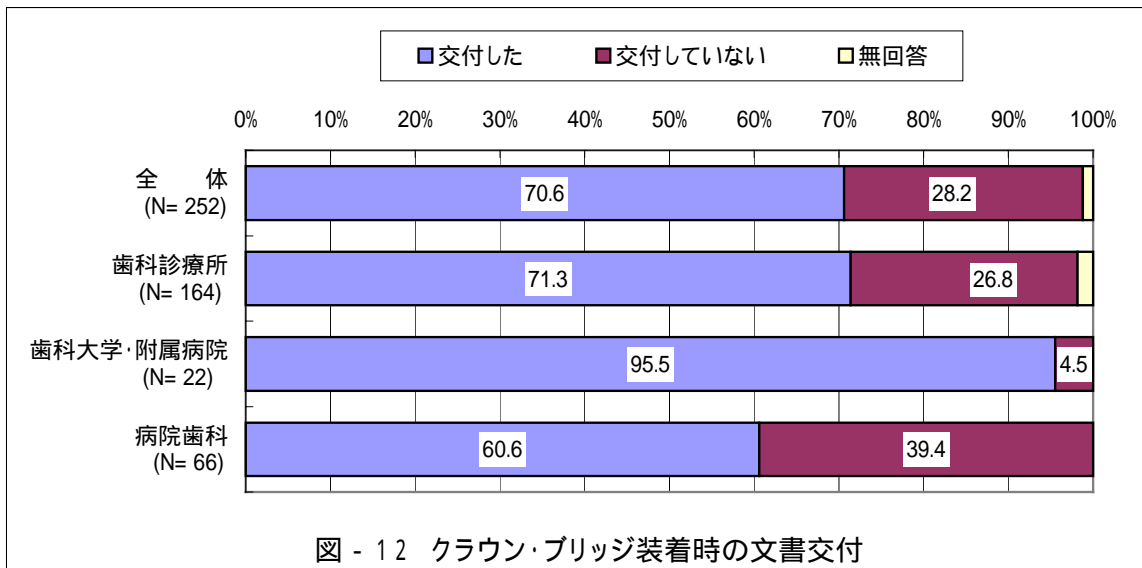


11) クラウン・ブリッジ装着時の日付・医療機関名・治療した部位等を記入した文書の交付

クラウン・ブリッジ装着時の文書交付を全体で見ると、「交付した」が70.6%、「交付していない」が28.2%との回答であった。

次に医療機関の種類別に見ると、「交付した」と回答したのは、「歯科大学・附属病院」の95.5%、「歯科診療所」の71.3%、「病院歯科」の60.6%であった。

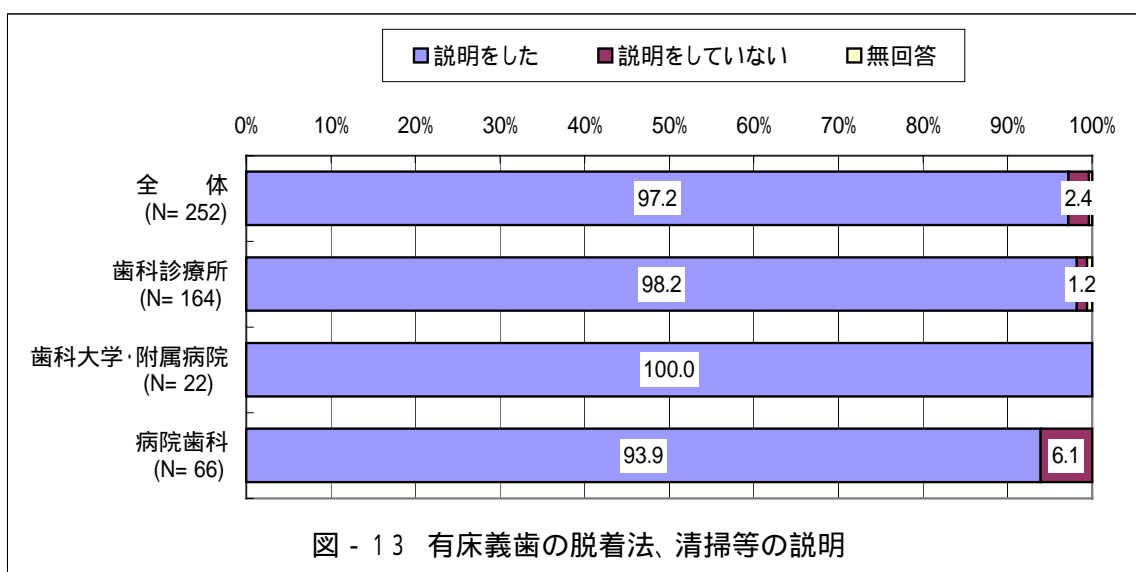
(図 - 12)。



1 2) 有床義歯の脱着法、清掃等の説明の有無

有床義歯の脱着法、清掃等の説明を全体で見ると、「説明をした」が97.2%、「説明をしていない」2.4%との回答であった。

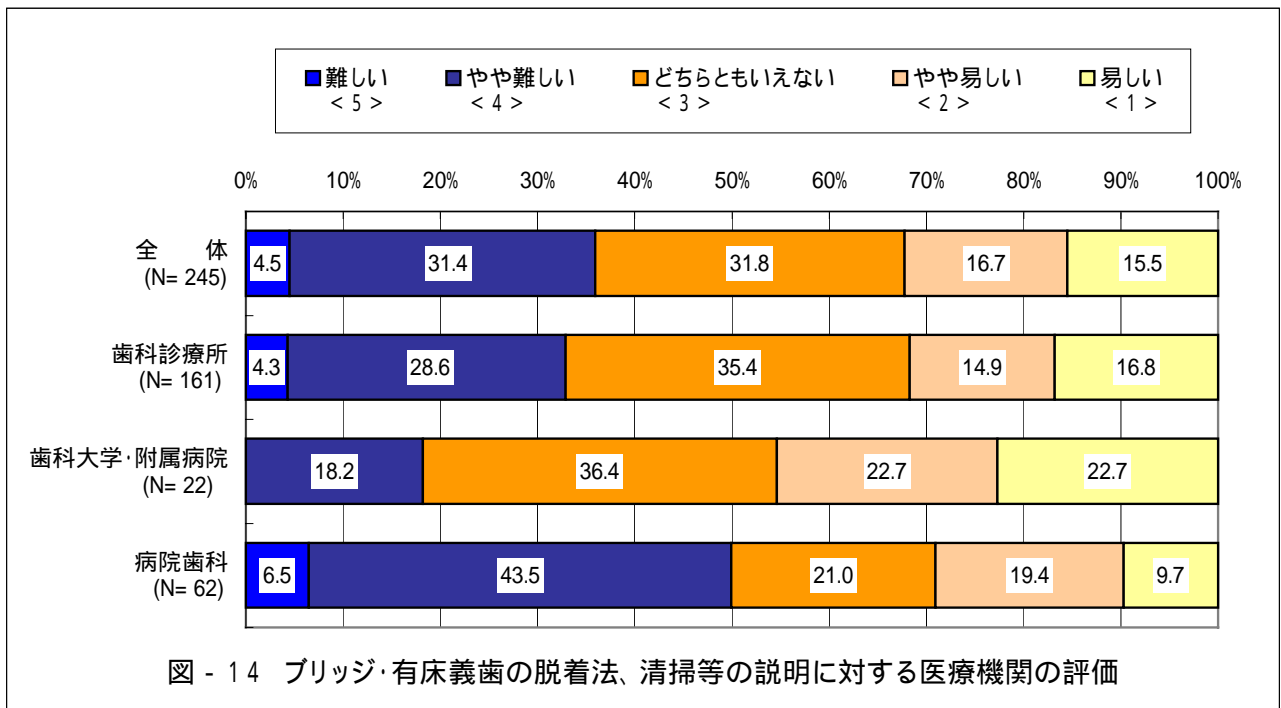
医療機関の種類別に見ると、「説明をした」と回答したのは、「歯科診療所」の98.2%、「歯科大学・附属病院」の100.0%、「病院歯科」の93.9%であった（図 - 13）。



1 3) 有床義歯の脱着法、清掃等の説明に対する評価

有床義歯の脱着法、清掃等の説明に対する評価を全体で見ると、『難しい』が 35.9%、『易しい』が 32.2%、『どちらともいえない』31.8%との回答であった。

また、医療機関の種類別に見ると、『難しい』と回答したのは、「病院歯科」の 50.0%、「歯科診療所」32.9%、「歯科大学・附属病院」が 18.2%であった（図 - 14）。



14) 医療機関の情報提供についての自由記載

(医療機関タイプ別に主なものを列記した。特に今回のアンケートの趣旨ではないことについては割愛した。)

【歯科大学・附属病院】

- ・ 説明に対する対価が欲しい 3件
- ・ 口頭で説明後、治療方針を书面化するのに対価として採算が合わない 1件
- ・ 医療の質を高めるために指針が欲しい 1件
- ・ 検査結果が出ないうちから予測して文書化するのが困難 1件
- ・ 患者の治療内容等に差異があるので難易度を一緒にできない 1件
- ・ 個人情報保護法の対応の検討が必要 1件

説明や文書化に要する時間への対価を求めている。

【病院歯科】

- ・ 情報提供は当然である 2件
- ・ 情報提供を制度として規定するのはおかしいし、対価がない 2件
- ・ 初診料の点数が低い 2件
- ・ 情報提供を书面化する時間がない 2件
- ・ 書面による情報提供が良いとは言えない 2件

情報提供に積極的な意見、「文書化」に対する対価を求める意見、口頭で説明したほうが患者にとって良い場合もあるという意見がみられた。

【歯科診療所】

- ・ 文書による情報提供がよい場合と悪い場合がある 7件
- ・ 情報提供を作成する時間がない(手間がかかる) 5件
- ・ 今後、電子カルテやパソコン等の機器を駆使した情報提供が必要 3件
- ・ 人間味のある情報提供が必要 3件
- ・ 「かかりつけ歯科医初診料」と「歯科初診料」を区別する必要はない 2件
- ・ 歯科初診料の点数が低い(診療報酬の見直し) 2件

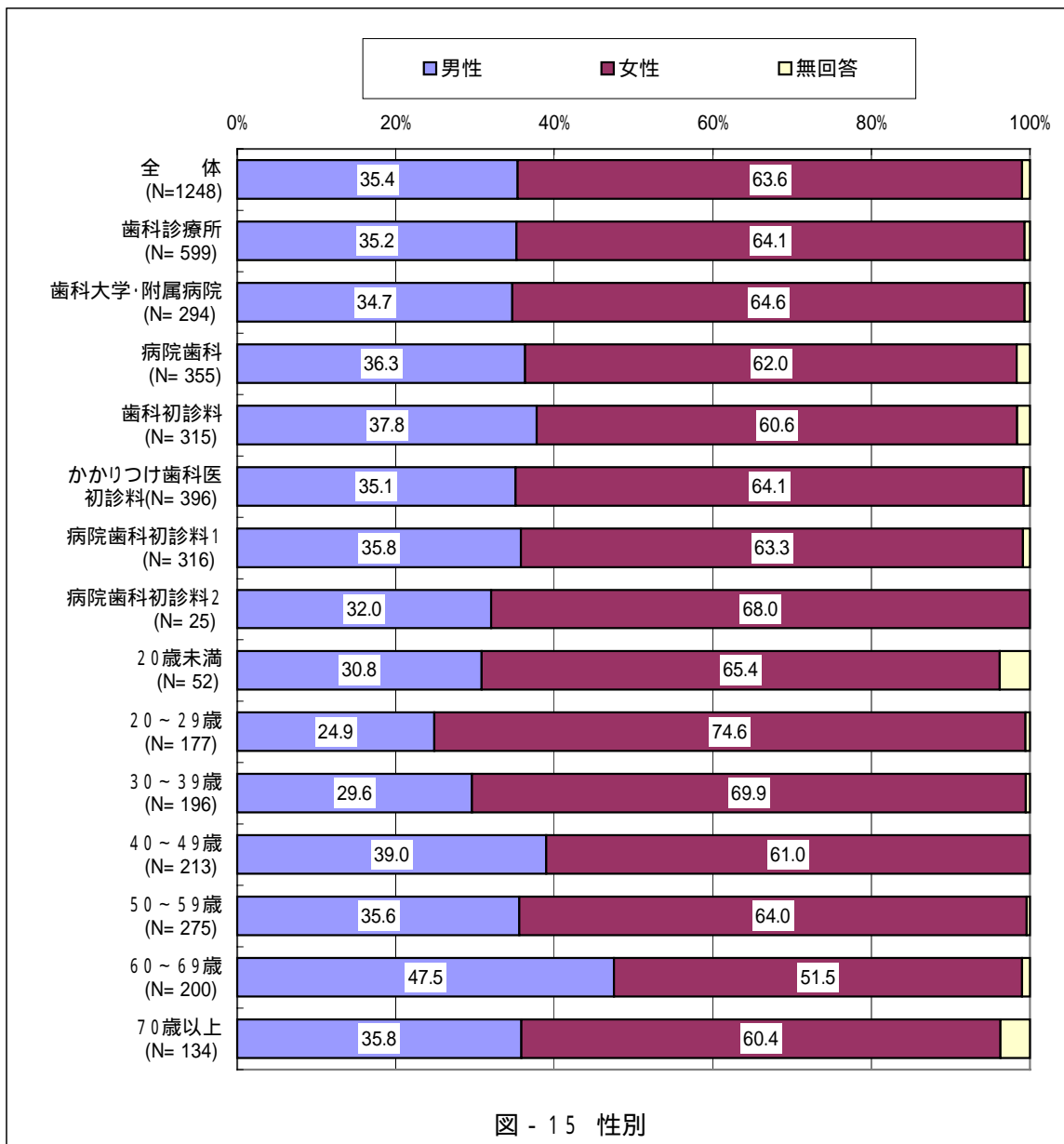
- ・ 情報提供の全国統一化 2件
- ・ 口頭説明と文書での説明は同じである 2件
- ・ 情報提供がうまく伝わるかが不安である 2件
- ・ 情報提供の推進 2件

文書による情報提供より「口頭説明」の方が良い場合があるとの意見、情報提供を推進すべき方向性や方策についての意見、文書化に対する対価を求める意見が多い。

2. 患者

1) 性別について

性別に全体で見ると、「男性」が 35.4%、「女性」が 63.6%との回答であった。また、医療機関の種類別に見ても初診料の算定別に見てもその傾向は殆ど変わらなかった。年代別では 20 代の女性の割合が最も高く、60 歳代ではほぼ拮抗していた(図 - 15)。

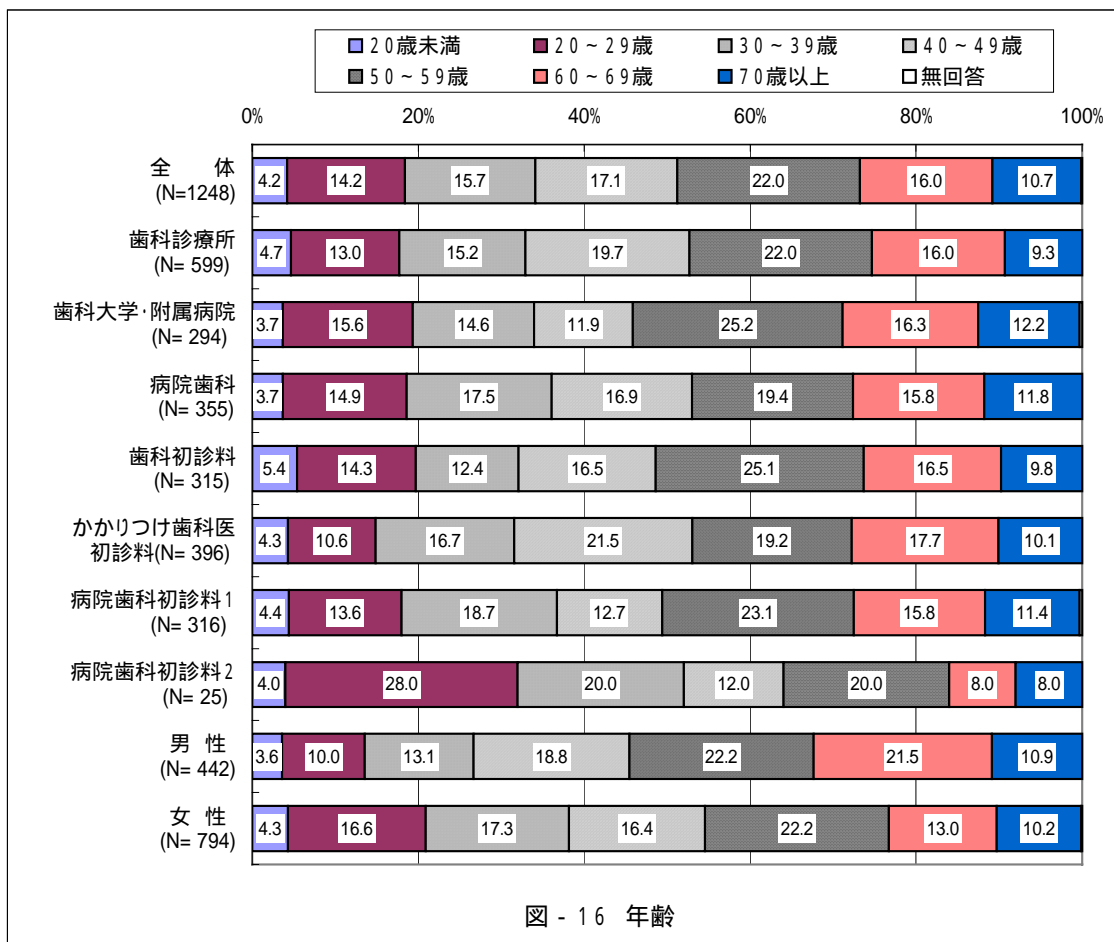


2) 年齢について

年齢についての回答を全体で見ると、「50代」が22.0%、「40代」17.1%、「60代」16.0%、「30代」15.7%、「20代」14.2%、「70代」10.7%、「20歳未満」が4.2%であった。年齢の平均は47.41歳、標準偏差は17.42であった。

医療機関の種類別に見ると、歯科診療所では、「50代」が22.0%、「40代」が19.7%、「60代」16.0%、「30代」が15.2%との回答であった。歯科大学・附属病院では、「50代」25.2%、「60代」16.3%、「20代」15.6%、次いで、「30代」の14.6%との回答であった。病院歯科では、「50代」19.4%、「30代」17.5%、「40代」16.9%、「60代」15.8%との回答であった。

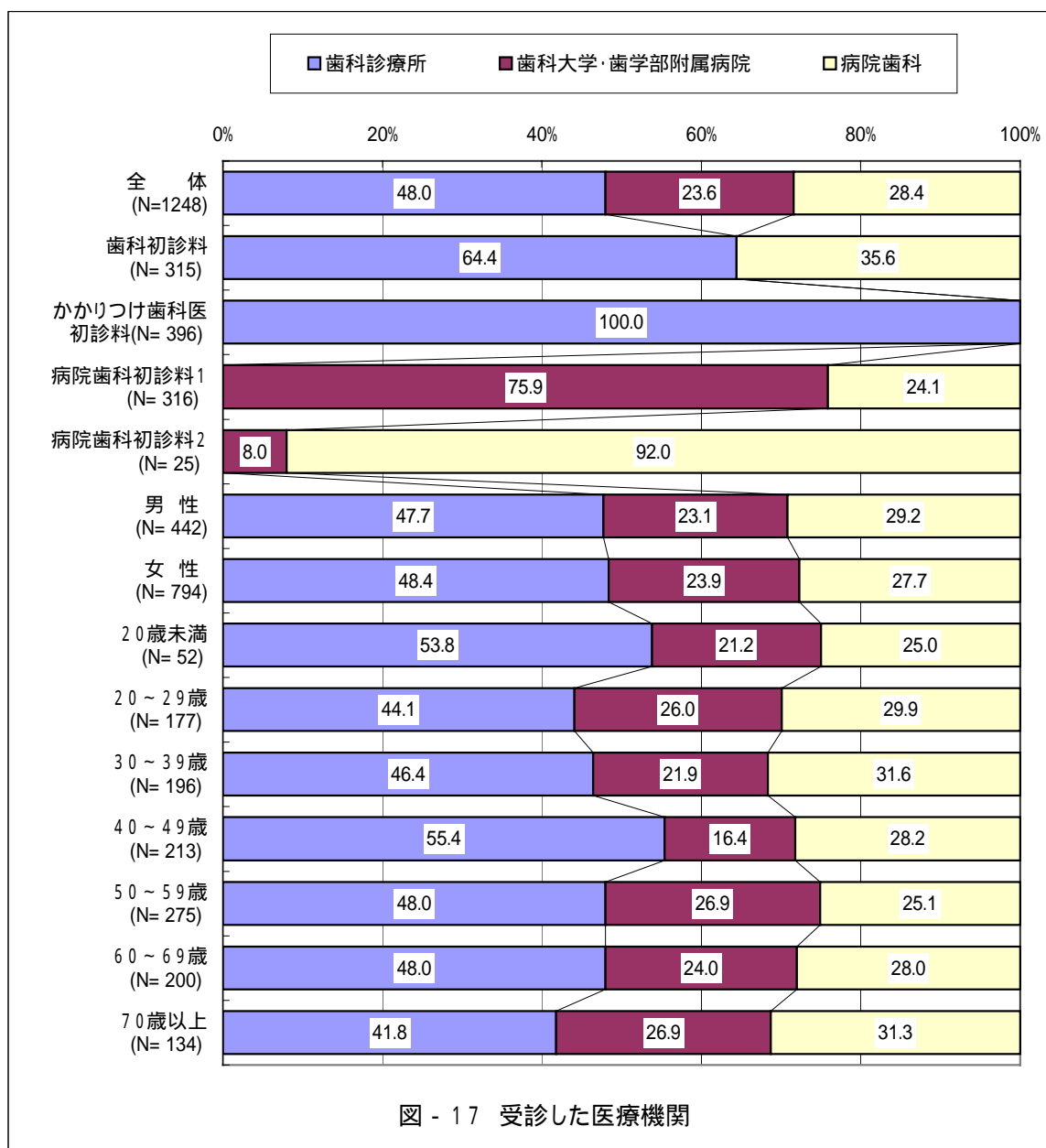
一方、初診料の算定別にみると、歯科初診料では、「50代」が25.1%、「40代」と「60代」が16.5%、「20代」が14.3%との回答であった。かかりつけ歯科医初診料では、「40代」が21.5%、「50代」が19.2%、「60代」が17.7%、「30代」が16.7%との回答であった。病院歯科初診料1では、「50代」が23.1%、「30代」が18.7%、「60代」が15.8%、「20代」が13.6%との回答であった。病院歯科初診料2では、「20代」が28.0%、「30代」と「50代」が20.0%、「40代」が12.0%であった。(図-16)



3) 受診した医療機関について

受診した医療機関を全体で見ると、「歯科診療所」が48.0%、「病院歯科」28.4%、「歯科大学・歯学部附属病院」が23.6%との回答であった。

また、初診料の算定別に見ると、歯科初診料と回答したうちの、64.4%が「歯科診療所」、35.6%「が病院歯科」であった。かかりつけ歯科医初診料は、100.0%が「歯科診療所」であった。病院歯科初診料1のうちの、75.9%が「歯科大学・附属病院」、24.1%が「病院歯科」であった。病院歯科初診料2では、「病院歯科」が92.0%、「歯科大学・附属病院」8.0%であった。性別での差はみられなかった(図-17)。



4) 初診料の算定について

初診料の算定については患者用調査票の表紙に当該患者に算定した初診料の医療機関記入欄を設け、患者毎の初診料の種類を調査した。初診料の算定についての回答を全体で見ると、「かかりつけ歯科医初診料」が31.7%、「病院歯科初診料1」25.3%、「歯科初診料」は25.2%、次いで「病院歯科初診料2」が2.0%（無回答・無効回答は15.7%）であった。医療機関の種類別にみると、歯科診療所では、「かかりつけ歯科医初診料」は66.1%、「歯科初診料」が33.9%であった。歯科大学・附属病院では、「病院歯科初診料1」が81.6%、「病院歯科初診料2」が0.7%、病院歯科では、「歯科初診料」が31.5%、「病院歯科初診料1」が21.4%、「病院歯科初診料2」が6.5%（無回答・無効回答が40.6%）であった。無回答・無効回答についての割合が高いこと、特に病院歯科での割合が高いことに留意して、全体の傾向を読まなければならない。性別で見ると、男性では「かかりつけ歯科医初診料」が31.4%、「歯科初診料」26.9%、「病院歯科初診料1」25.6%、となっており、女性では「かかりつけ歯科医初診料」が32.0%、「病院歯科初診料1」が25.2%、「歯科初診料」が24.1%であった。

次に年代別に見ると、20歳未満では「歯科初診料」「かかりつけ歯科医初診料」とともに32.7%、次いで「病院歯科初診料1」の26.9%であった。20～29歳では「歯科初診料」25.4%、次いで「病院歯科初診料1」の24.3%、「かかりつけ歯科医初診料」23.7%であった。30～39歳では、「かかりつけ歯科医初診料」33.7%、「病院歯科初診料1」30.1%、次いで「歯科初診料」の19.9%であった。40～49歳では、「かかりつけ歯科医初診料」が39.9%、次いで「歯科初診料」24.4%、「病院歯科初診料1」18.8%となっており、「かかりつけ歯科医初診料」の割合が高かった。50～59歳では、「歯科初診料」28.7%、「かかりつけ歯科医初診料」27.6%、「病院歯科初診料1」が26.5%となっており、殆ど差が見られなかった。60～69歳では、「かかりつけ歯科医初診料」35.0%が最も高く、次いで「歯科初診料」の26.0%、「病院歯科初診料1」の25.0%である。70歳以上では、「かかりつけ歯科医初診料」29.9%、「病院歯科初診料1」26.9%、「歯科初診料」23.1%であった（図 - 18）。

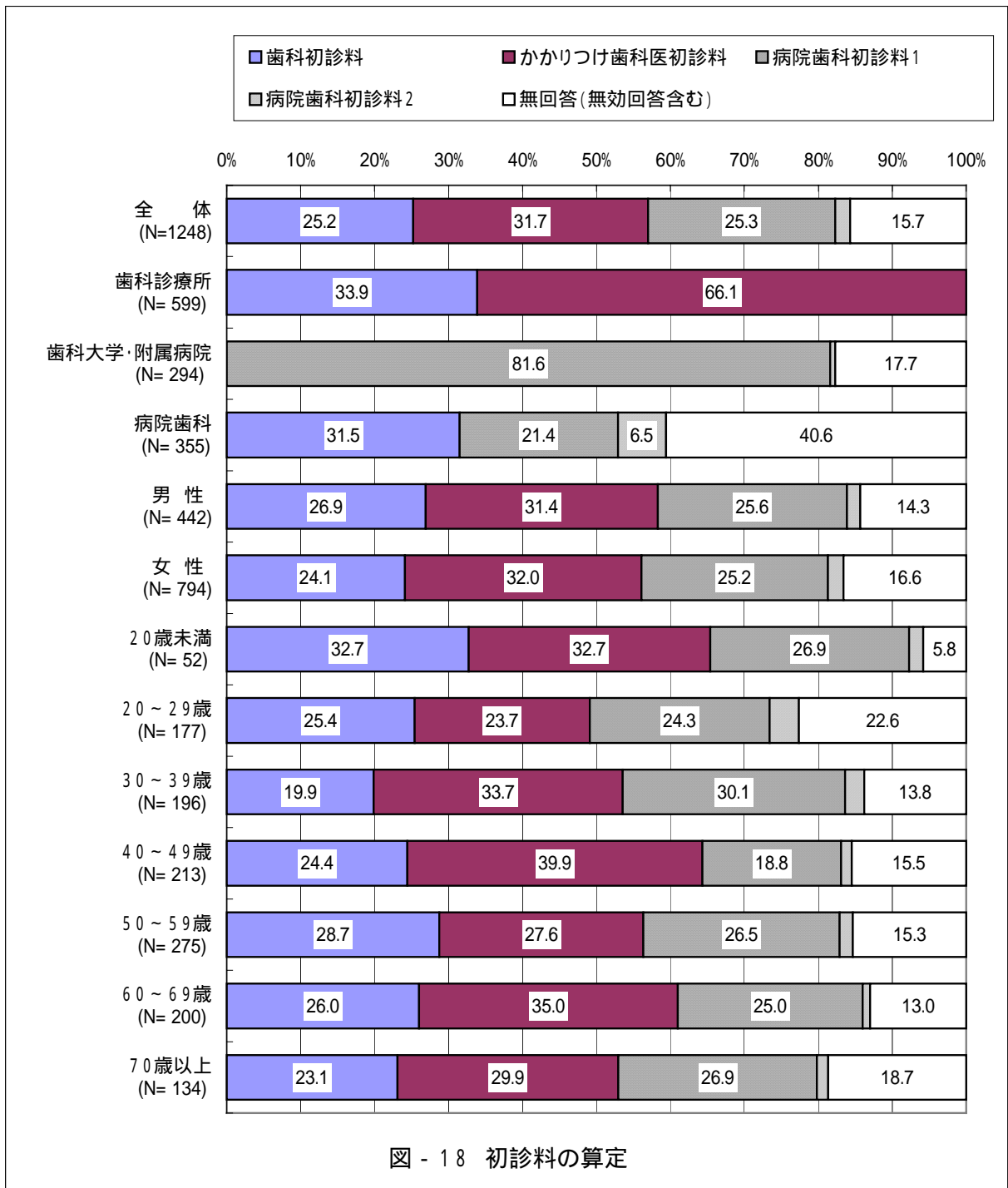
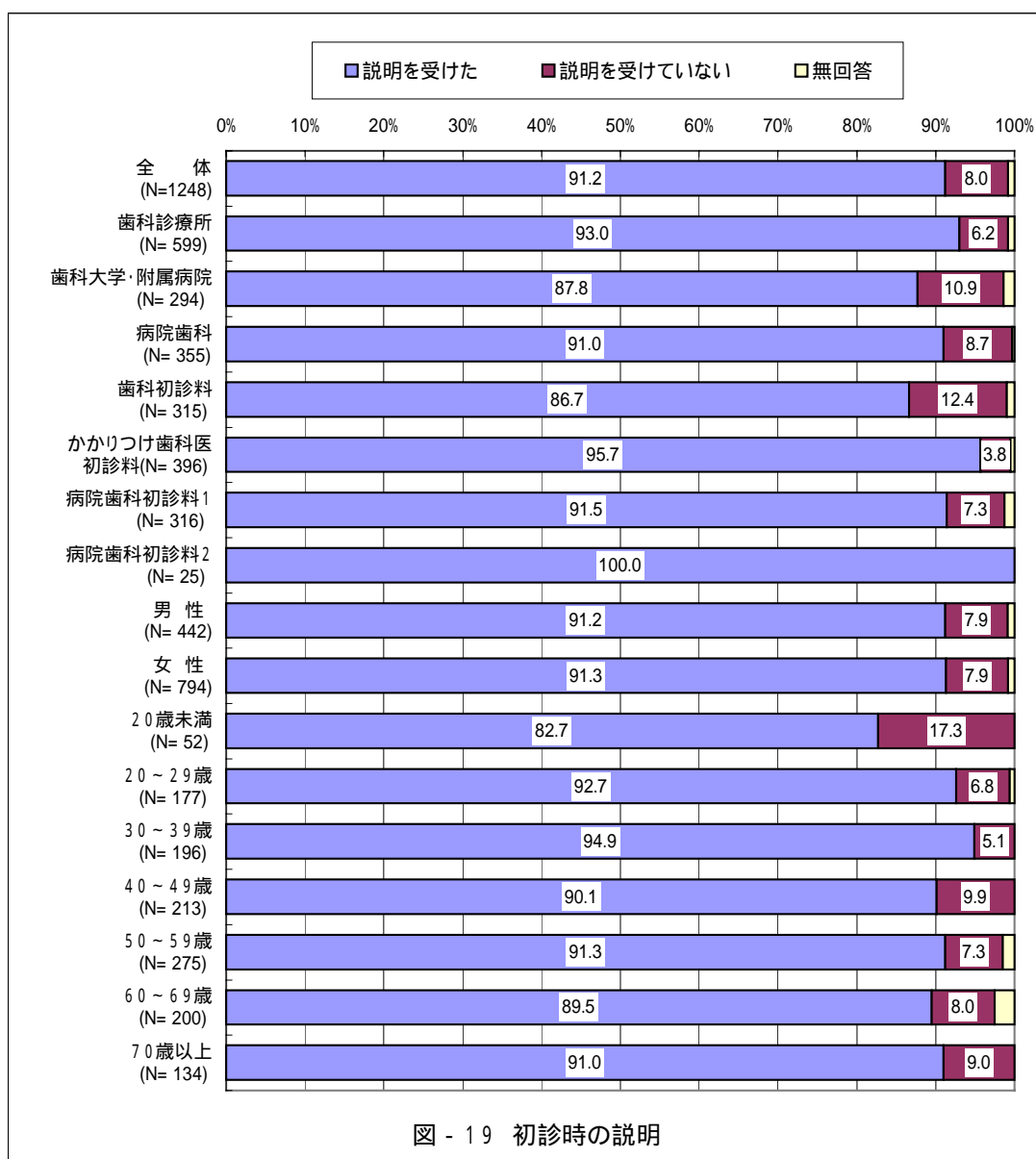


図 - 18 初診料の算定

5) 初診時の病名・治療期間・治療内容等の説明について

病名・治療期間・治療内容の説明の状況について、全体で見ると、「説明を受けた」との答えが91.2%、「説明を受けていない」との答えが8.0%となっており、大多数が説明を受けたと認識していた。医療機関の種類別に「説明を受けた」を見ると、「歯科診療所」が93.0%、「歯科大学・附属病院」が87.8%、「病院歯科」が91.0%であった。初診料の算定別に見ると、「歯科初診料」が86.7%、「かかりつけ歯科医初診料」は95.7%、「病院歯科初診料1」は91.5%、「病院歯科初診料2」は100%であった。

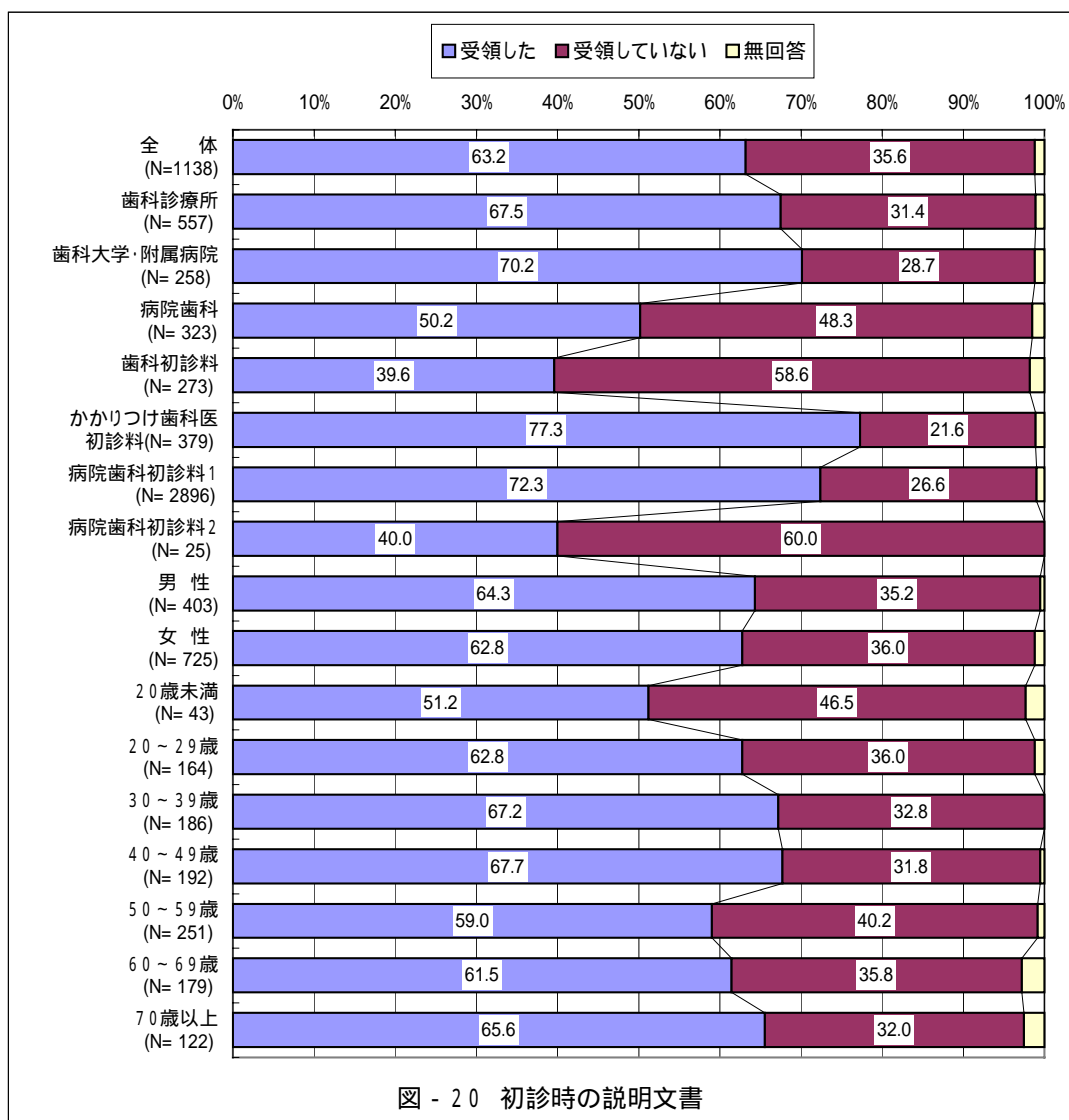
性別では差はなかった。年代別で見ると、「説明を受けている」と答えたのは、「20歳未満」の82.7%と60代の89.5%を除き、すべて90%以上であった(図-19)。



6) 説明内容が記入された文書の受領について

説明内容が書かれた用紙の受領について全体で見ると、「受領した」との答えが63.2%、「受領していない」との答えが35.6%で、6割強が用紙を受け取ったと認識していた。次に、医療機関の種類別に「受領した」を見ると、最も高いのが「歯科大学・附属病院」の70.2%、次いで、「歯科診療所」67.5%、「病院歯科」50.2%となっていた。

また、歯科初診料の算定別に「受領した」を見ると、「かかりつけ歯科医初診料」は77.3%、「病院歯科初診料1」は72.3%、「病院歯科初診料2」は40.0%、「歯科初診料」が39.6%となっていた。性別の差は殆ど見られない。年代別に「受領した」を見ると最も高いのが「40代」の67.7%、「30代」67.2%、「70歳以上」が65.5%となっており、最も低いのが「20歳未満」の51.2%であった(図-20)。



以下、表現の中の『わかりやすかった』は「非常にわかりやすかった」+「わかりやすかった」を、『わかりにくかった』は「わかりにくかった」+「ややわかりにくかった」を合計したものを表記する。

7) 初診時の説明に対する評価

初診時の説明に対する評価を全体で見ると「非常にわかりやすかった」37.8%と「わかりやすかった」48.2%を加え、『わかりやすかった』が86.0%となっており、わかりやすいとの回答が多かった。また、「わかりにくかった」0.6%と「ややわかりにくかった」6.4%を加え、『わかりにくかった』が7.0%であった。

また、医療機関の種類別・初診料の算定別・性別・年代別に見ても大きな差は見られない(図-21)。

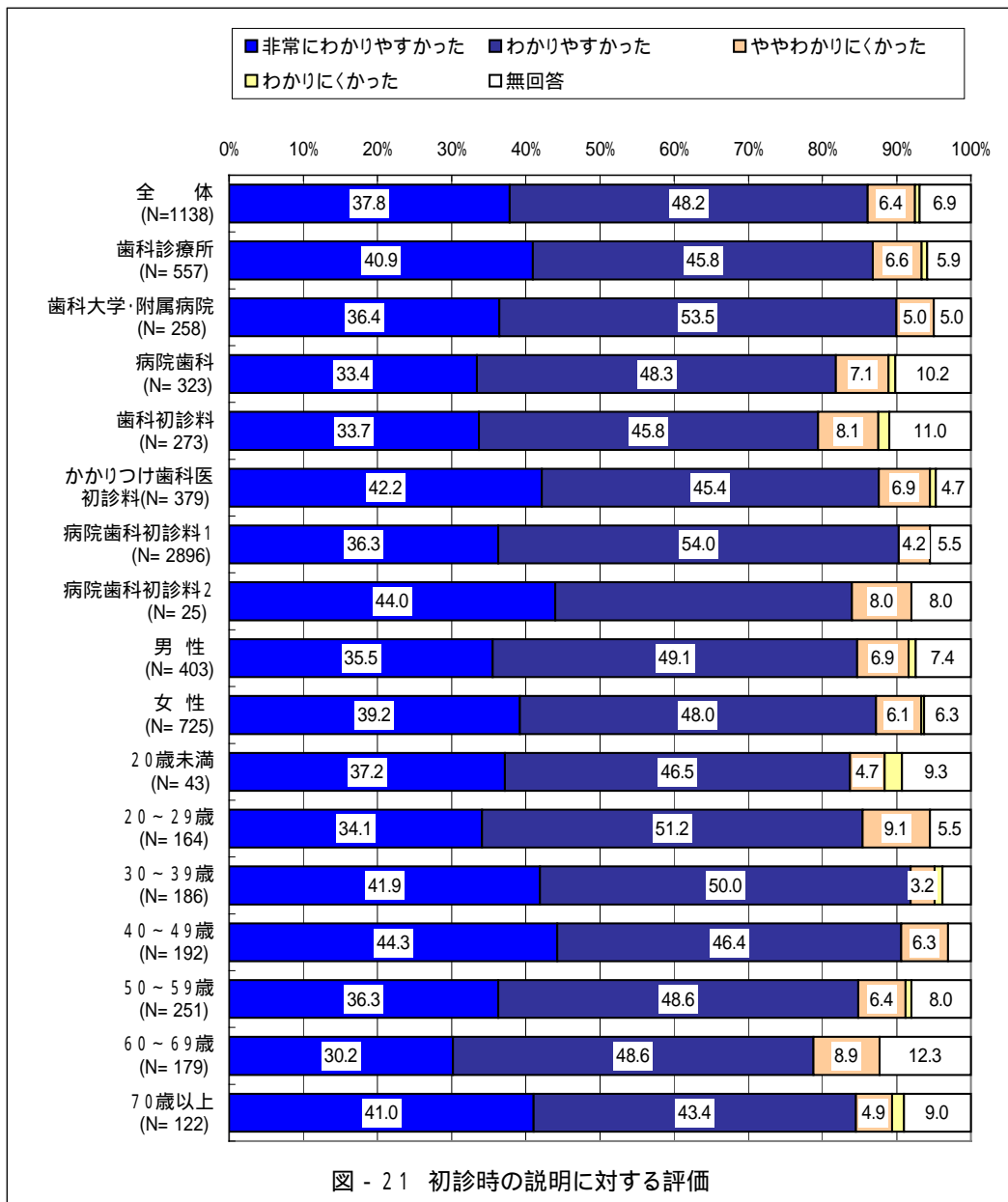
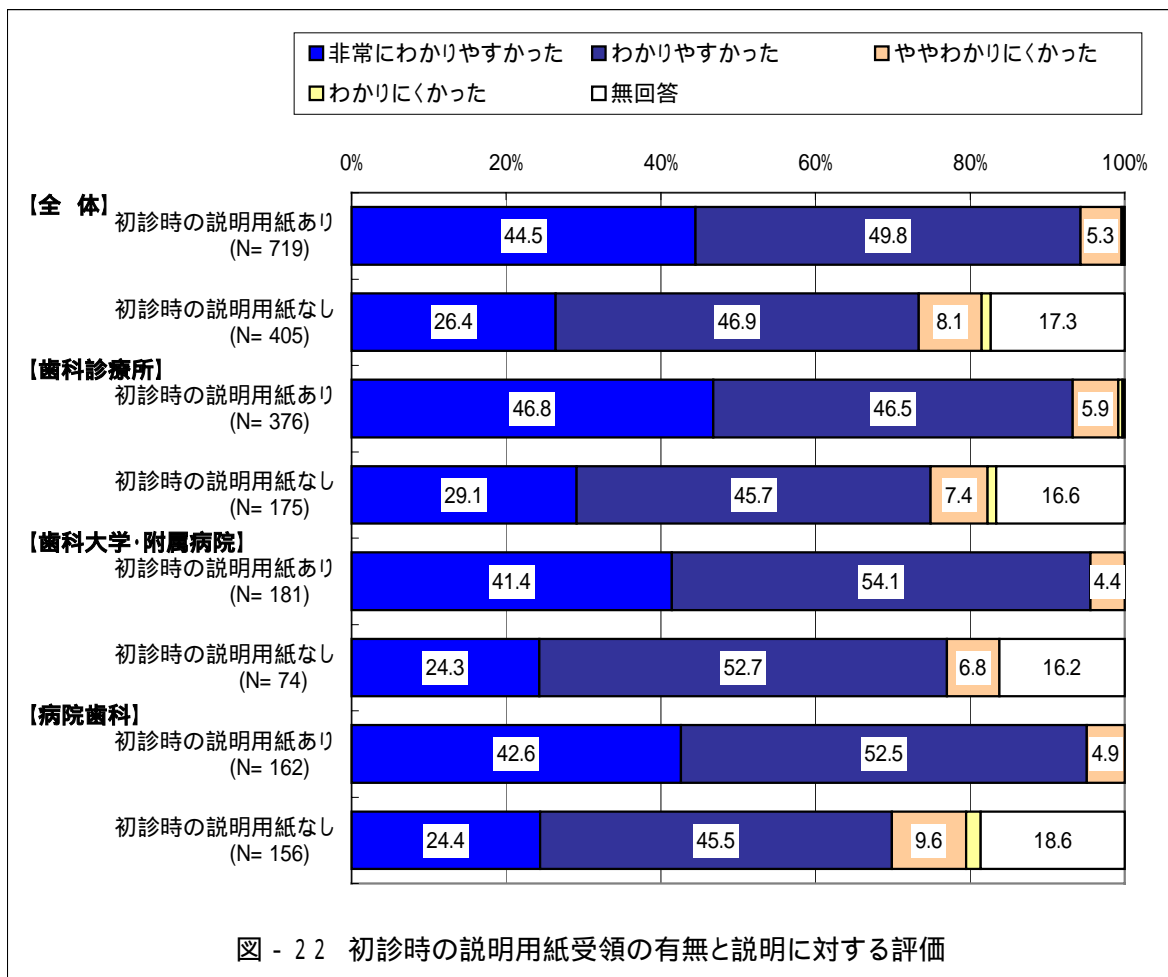


図 - 21 初診時の説明に対する評価

8) 初診時の文書受領の有無と説明に対する評価

初診時の文書受領の有無と説明に対する評価との関連を全体で見ると、「説明用紙を受領した」場合は、「非常にわかりやすかった」44.5%と「わかりやすかった」49.8%を加え、『わかりやすかった』という回答が95.3%であった。「説明用紙を受領しなかった」場合は、「非常にわかりやすかった」26.4%と「わかりやすかった」46.9%を加え、『わかりやすかった』という回答が73.3%であった。説明用紙を受領している方が、受領していない場合より、「非常にわかりやすかった」という答が多く、医療機関の種類別に見ても同様の傾向であった(図-22)。



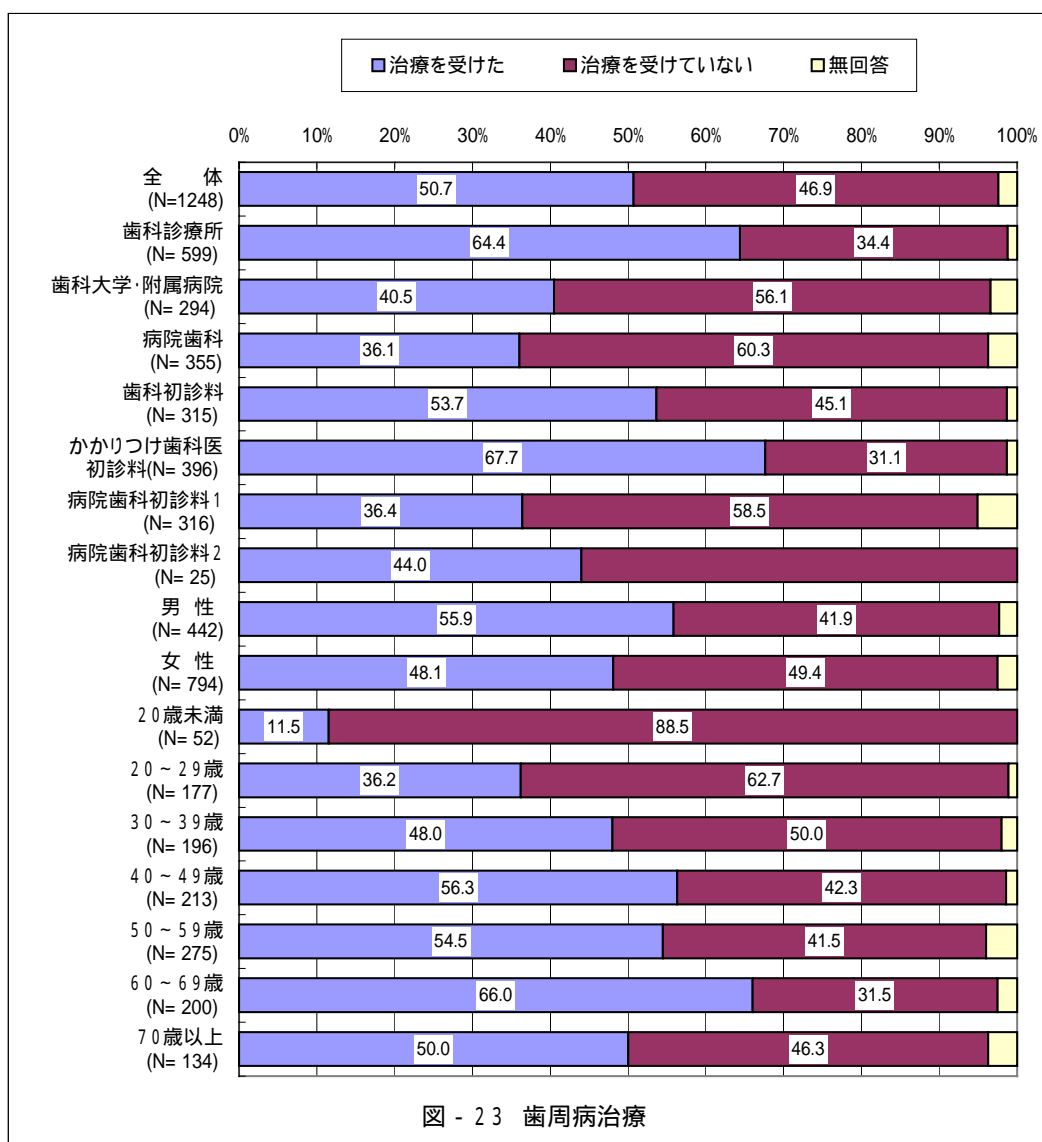
9) 歯周治療について

歯周治療について全体で見ると、「受けた」との答えが 50.7%、「受けなかった」との答えが 46.9%であった。

医療機関の種類別に「受けた」を見ると、「歯科診療所」が 64.4%と最も高く、「歯科大学・附属病院」が 40.5%、「病院歯科」36.1%となっていた。

また、初診料の算定別に「受けた」を見ると、かかりつけ歯科医初診料では、67.7%、歯科初診料が 53.7%、病院歯科初診料 2 が 44.0%、病院歯科初診料 1 が 36.4%となっていた。

性別で「受けた」を見ると、男性が 55.9%、女性が 48.1%であった。次に、年代別で「受けた」を見ると、「60代」が 66.0%、「40代」が 56.3%、「50代」54.5%「70歳以上」が 50.0%となっており、40歳代以上では半数以上が歯周病治療を受けたと答えた。なお、最も低いのが「20歳未満」の 11.5%となっていた(図 - 23)。



10) 歯磨き指導に対する認識

歯磨き指導に対する認識を全体で見ると、「指導を受けた」との答えが90.8%、「指導を受けなかった」との答えが8.7%となっており、大多数が指導を受けたと認識していた。医療機関別に「指導を受けた」を見ると、「歯科診療所」が94.0%、「病院歯科」が87.5%、「歯科大学・附属病院」が84.0%であった。

初診料の算定別に「指導を受けた」を見ると、「かかりつけ歯科医初診料」が94.4%、「歯科初診料」が91.1%、「病院歯科初診料2」が90.9%、「病院歯科初診料1」が86.1%の順であった。

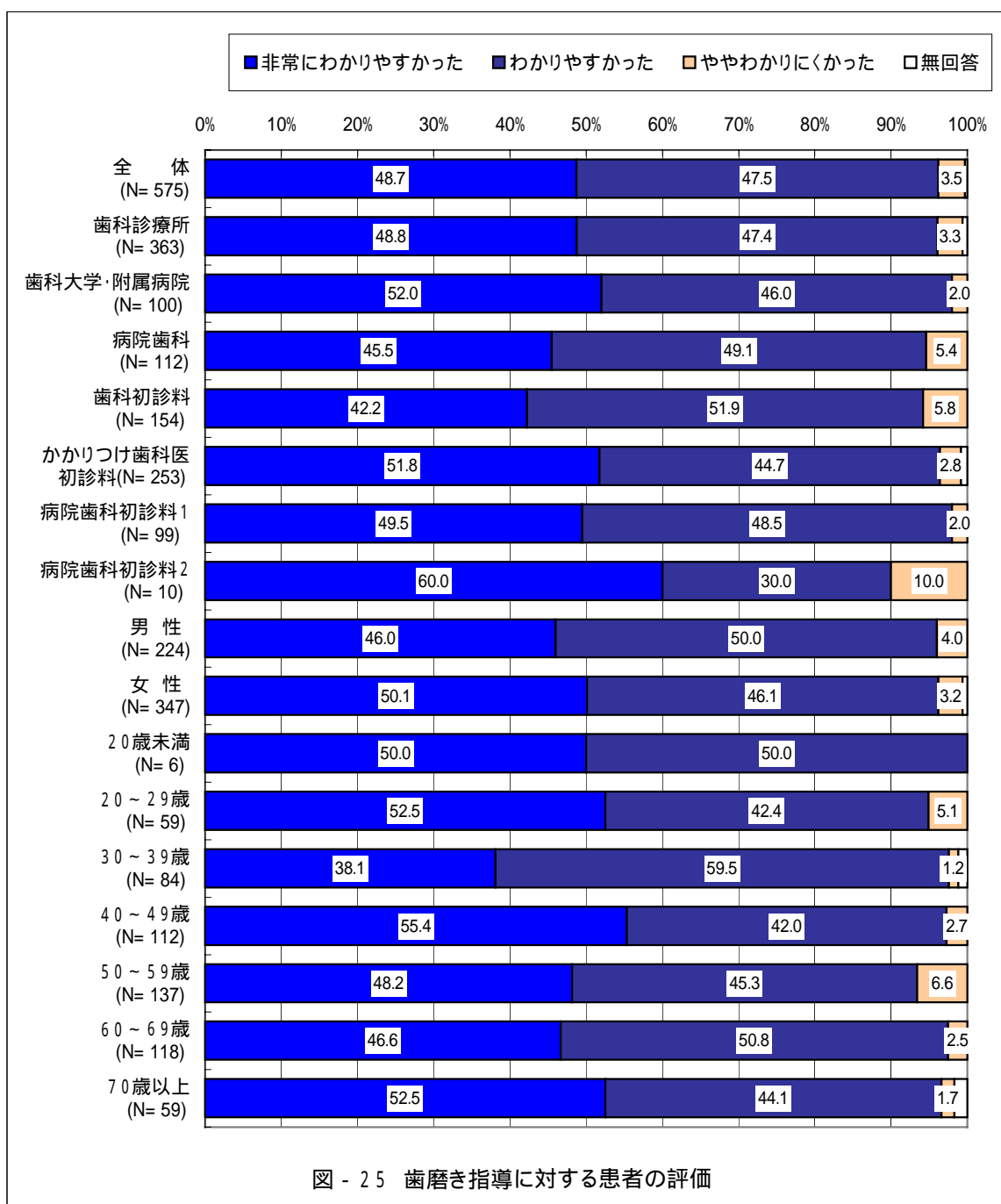
性別でも差はなかった。年代別で「指導を受けた」を見ると、「20歳未満」が100.0%と他の年代と比較して高かった。この年代以外についても、ほぼ90%に近い数値であった(図-24)。



1 1) 歯磨き指導に対する評価

歯磨き指導に対する評価を全体で見ると、『わかりやすかった』との答えが 96.2% となり、『わかりにくかった』との答えは 3.5%であった。

また、医療機関の種類別・初診料の算定別・性別・年代別に見ても大きな差異は見られなかった(図 - 25)。

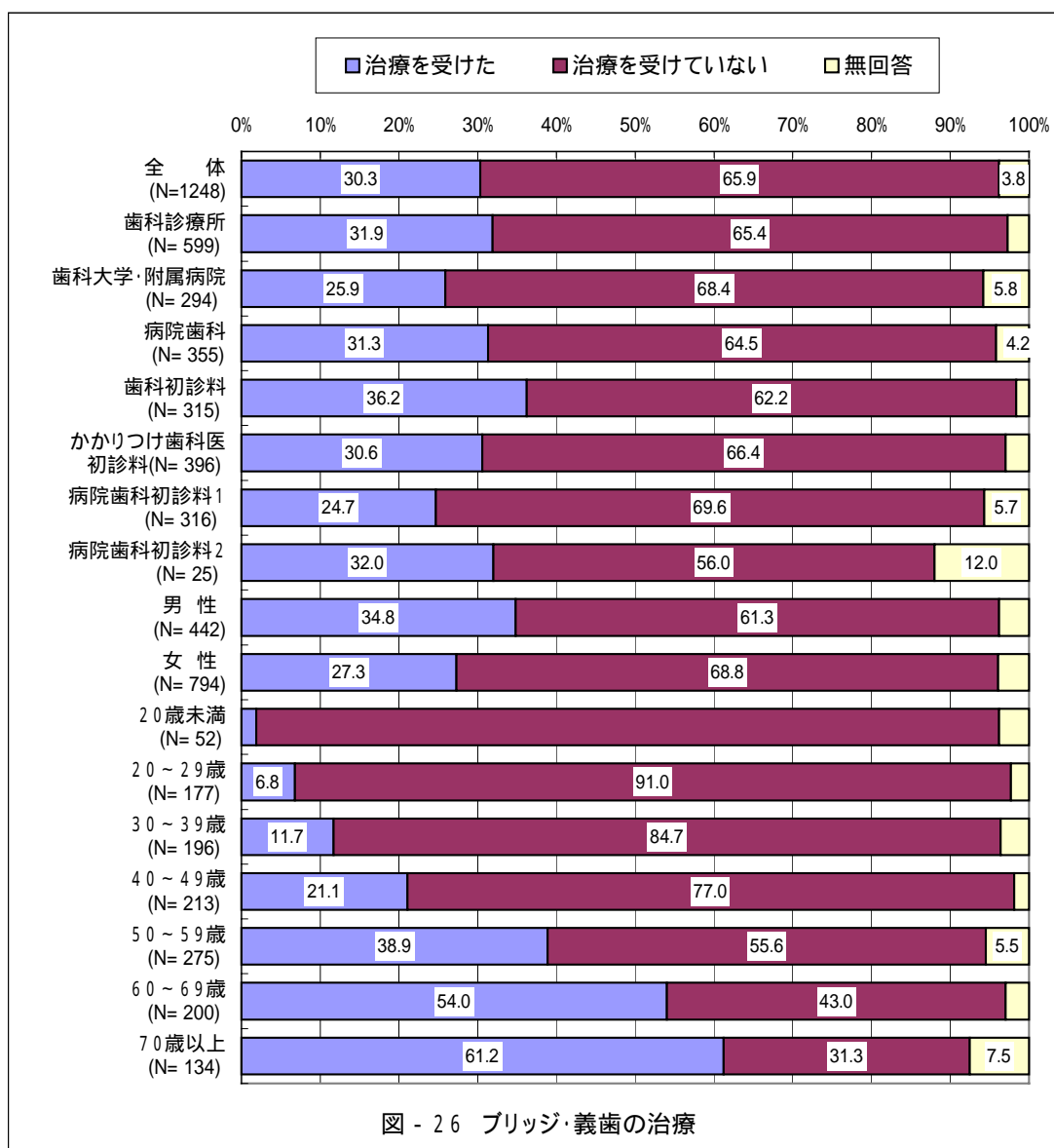


12)ブリッジ・義歯の治療について

ブリッジ・義歯治療について全体で見ると、「受けた」との答えが 30.3%、「受けなかった」との答えが 65.9%となっていた。

医療機関の種類別に「受けた」を見ると、「歯科診療所」が 31.9%、「歯科大学・附属病院」25.9%、「病院歯科」31.3%となっていた。一方、初診料の算定別に「受けた」を見ると、歯科初診料が 36.2%、病院歯科初診料 2 が 32.0%、かかりつけ歯科医初診料が 30.6%となっていた。

性別で「受けた」を見ると、男性が 34.8%、女性が 27.3%で男性の方がやや高い傾向にあった。次に、年代別で「受けた」を見ると、「70 歳以上」が 61.2%、「60 代」が 54.0%、「50 代」38.9%、「40 代」が 21.1%、「30 代」が 11.7%となっており、当然のことながら、加齢に従って数値が増加していた(図 - 26)。



13)ブリッジ・義歯治療の説明について

ブリッジ・義歯治療の説明について、全体で見ると、「説明を受けた」との答えが94.4%、「説明を受けていない」との答えが5.0%となっており、大多数が説明を受けていると認識していた。医療機関の種類別に見ると、「説明を受けた」と回答したのは、「歯科診療所」の97.9%、「歯科大学・附属病院」の94.7%、「病院歯科」の88.3%であった。初診料の算定別に見ると、「説明を受けた」と回答したのは、「かかりつけ歯科医初診料」の98.3%、「歯科初診料」の95.6%、「病院歯科初診料1」の93.6%、「病院歯科初診料2」の87.5%であった。性別では差はなかった。年代別で見ると、「説明を受けた」と回答したのは、「20歳未満」「20代」がおのおの100.0%、次いで、「60代」が96.3%、「40代」95.6%、「70歳以上」95.1%であった。全ての年代で90%以上が説明を受けていると認識していた（図-27）。



14)ブリッジ・義歯治療の説明に対する評価

ブリッジ・義歯治療の説明に対する評価について全体で見ると、『わかりやすかった』との答えが93.6%となっており、『わかりにくかった』との答えは5.0%であった。また、医療機関の種類別・初診料の算定別・性別・年代別に見ても大きな差は見られなかった(図-28)。

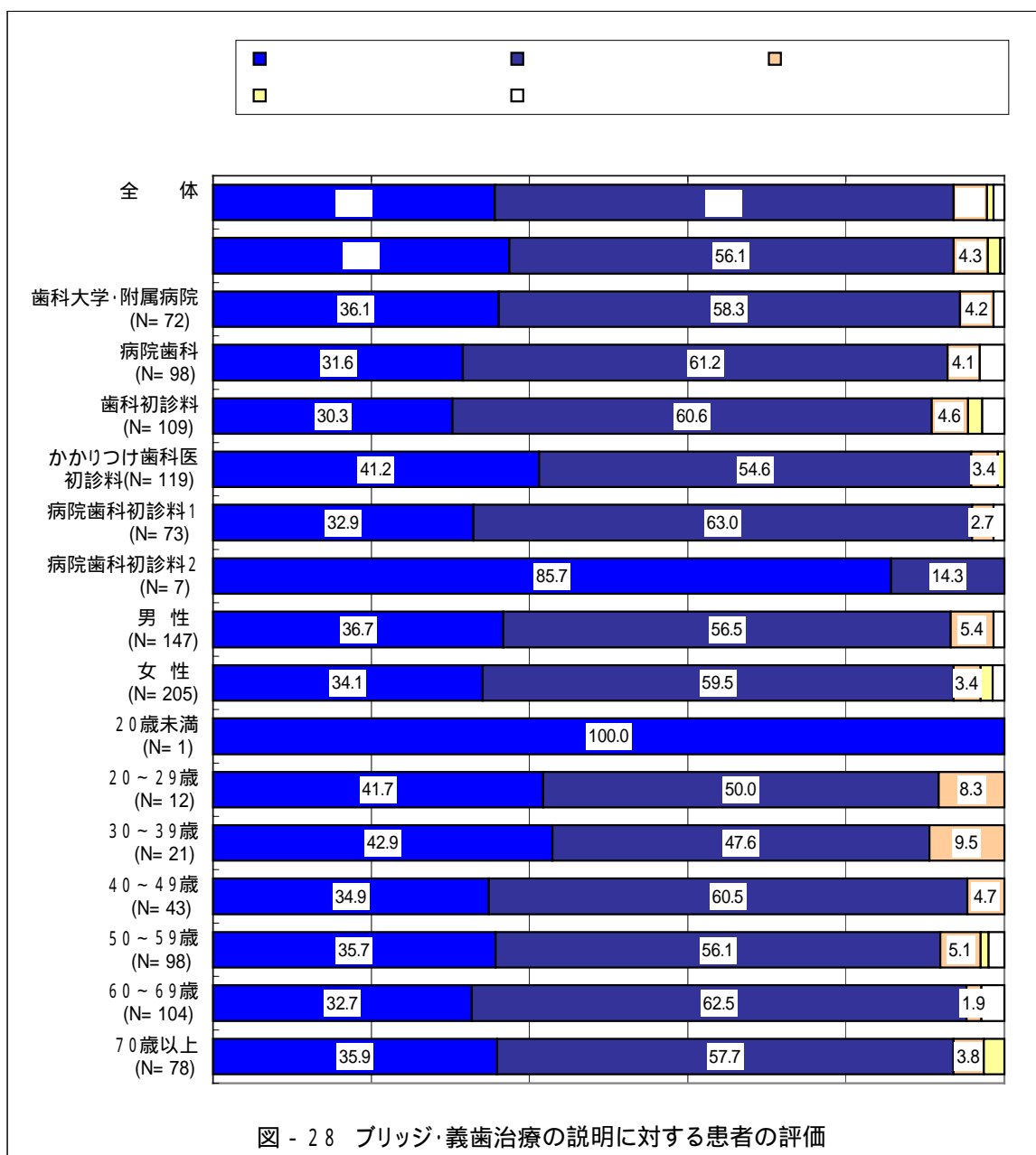


図 - 28 ブリッジ・義歯治療の説明に対する患者の評価

15) クラウン・ブリッジの治療

クラウン・ブリッジの治療を全体で見ると、「受けた」が33.3%、「受けなかった」が61.0%との回答であった。医療機関別に「受けた」を見ると、「歯科診療所」が38.1%、「病院歯科」34.9%「歯科大学・附属病院」が21.1%であった。

また、初診料の算定別に「受けた」を見ると、「病院歯科初診料2」が40.0%、「かかりつけ歯科医初診料」が37.9%「歯科初診料」が35.6%、「病院歯科初診料1」が20.9%となっていた。

性別で「受けた」を見ると、男性が33.9%、女性が32.6%で殆ど性差は見られなかった。次に、年代別で「受けた」を見ると、「40代」「50代」「60代」が約40%、次いで、「70歳以上」が33.6%、「20代」の22.0%となっていた(図-29)。

